

第十三回 衆議院議事速記録第二十六號

明治三十二年二月二十四日(金曜日)午後一時十四分開議

議事日程 第三十四號 明治三十二年二月二十四日

午後一時開議

第一 臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判 第二讀會ノ續

第二 權ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第三 所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第五 船舶法案(政府提出) 第一讀會

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第七 船舶法案(政府提出) 第一讀會

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 第一讀會

第九 宅地組換法案(貴族院提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 國事犯罪者家祿賞典祿處分法案(閣信之十五名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 信用組合設置ニ關スル建議案(中野廣太郎君外四名提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 (特別報告第一號)憲法ノ保護ヲ受クルノ請願外一件 第一讀會

第十三 (特別報告第四號)衆議院議員選舉法中改正ノ請願外一件 第一讀會

第十四 (特別報告第十一號)衆議院議員選舉法改正ノ請願外二件 第一讀會

第十五 (特別報告第十六號)衆議院議員選舉法改正ノ請願外一件 第一讀會

第十六 (特別報告第五號)薩哈噠島鹹魚輸入關稅免除ノ請願 第一讀會

第十七 (特別報告第十二號)西伯利亞地方鹹魚無稅輸入ノ請願 第一讀會

第十八 (特別報告第十四號)北海道水產稅全廢ノ請願 第一讀會

第十九 (特別報告第十八號)北海道水產稅全廢ノ請願 第一讀會

第二十 (特別報告第九號)支那漆輸入關稅免除ノ請願 第一讀會

第二十一 (特別報告第十號)遠洋漁業獎勵法改正ノ請願 (委員長報告)

第二十二 (特別報告第六號)官有地無料拜借人ニ對スル處分ノ請願 (委員長報告)

第二十三 (特別報告第十七號)社寺上地山林ヲ各社寺有ニ引戻ノ請願 (委員長報告)

○議長(片岡健吉君)是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマスル(寺田書記官朗讀)

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

製造業煙草輸出交付金ニ關スル法律案

石原半右衛門君外三名提出ニ係ル憲法第五十八條第二項ニ關スル質問ニ對シ

西郷內務大臣外三名提出ニ係ル臺灣施政ニ關スル質問ニ對シ

西郷內務大臣外三名提出ニ係ル地租増徴反對同盟會ノ懇親會解散ニ關スル質問ニ對シ

西郷內務大臣外三名提出ニ係ル憲法第五十八條第二項ニ關スル質問ニ對シ

衆議院議員石原半右衛門君外三名提出憲法第五十八條第二項ニ關スル質問ニ對シ

衆議院議員野間五造君ヨリ臺灣施政ニ關スル質問ニ對シ

(別紙)

衆議院議長片岡健吉殿 陸軍大臣子爵桂 太郎 外務大臣子爵青木周藏

衆議院議員野間五造君提出臺灣施政方針ノ質問ニ對スル 答辯書

- 一 臺灣ノ對岸ニ對シテハ彼我ノ厚誼ヲ維持増進スルコトヲ計ルト共ニ條約及國際條規ノ許ス限リハ我國權國利ヲ保護進捗セシムルノ方針ナリ
二 內地臺灣間及沿岸航路ニ關シテハ將來益、利便ナラシメンコトヲ期ス對岸航路ニ關シテハ歲計ノ許ス限リ漸次擴張ヲ期セリ「シヤンク」船ニ關シテハ益、其取締ノ周到ナランコトヲ期ス
三 政府ノ政策ハ今日良民ヲ驅リテ土匪ヲシムルカ如キコトナキヲ信ス尙ホ今後ニ於テハ寬嚴其宜ヲ制シ以テ掃蕩ヲ期ス
四 稅法ハ舊慣ニ依リ民力ニ鑑ミ財政ノ現況ニ照ラシ制定シタルモノニシテ其宜ヲ得タルモノト信ス將來ニ互ルモ亦此方針ニ依ル
五 政府ガ廟宇ヲ收用シテ官用ニ供スルハ創業ノ際洵ニ不得已ニ出ツ政府ハ之ニ代ルノ設備ヲ企畫シ漸次之ヲ還附センコトヲ期ス
六 其他ニ就テハ政府ハ臨機適宜ノ施設ヲ怠ラサルヘシ
七 度量衡ニ關シテハ既ニ調査ヲ完了シタルモノ之ガ改制ノ得失ニ就テハ猶ホ考案中ニ在リ
八 教育ハ土地ノ狀況ニ依リ地方費ヲ以テ經費ヲ支辨シ得ルノ地ニ在テハ公學校ヲ設ケ又之ヲ支辨シ得サルノ地ニ在テハ國費ヲ以テ國語傳習所ヲ置キ之ヲ掌理セシメ益、其ノ普及ヲ期圖セリ
九 牛蕃ニ關シテハ恩威並ヒ布キ漸次化育ノ域ニ達セシメンコトヲ期ス臺灣銀行及臺灣鐵道ニ關シテハ各其法案ヲ具シ本期ノ議會ニ提出セント欲ス
衆議院議員工藤行幹君ヨリ地稅増徴反對同盟會ノ懇親會解散ニ關スル質問ニ對シ内務大臣ヨリ答辯書提出ニ付及御回付候也
明治三十二年二月二十四日 內閣總理大臣侯爵山縣有朋
衆議院議長片岡健吉殿 衆議院議員工藤行幹君外三十二名提出地租増徴反對同盟會ノ懇親會解散ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也
明治三十二年二月二十一日 內務大臣侯爵西鄉從道
(別紙) 衆議院議員工藤行幹君外三十二名提出地租増徴反對同盟會ノ懇親會解散ニ關シ質問ニ對スル答辯書
第一 明治三十一年十二月十五日芝山内紅葉館ニ開キタル地租増徴反對同盟會ノ懇親會ト稱スルハ政治ニ關ル事項ヲ講談論議スルタメ公眾ヲ會同シタルモノナルニ拘ハラズ法律ニ定メタル手續ヲ履行セス開會シタルニ依リ集會及改社法第十三條一號ノ規定ニ依リ解散ヲ命シタルモノナリ

第二 同月十日憲政黨員カ帝國ホテルニ於テ開キタル懇親會ハ特定人ノ會合ニシテ政談集會ヲ開キタルモノニアラサルヲ以テ前項ノ集會ト共性質ヲ異ニシタルモノナリ
右及答辯候也
明治三十二年二月二十一日 內務大臣侯爵西鄉從道

衆議院議長片岡健吉殿

- 貴族院ヨリ外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法案ヲ送付セラレタリ
貴族院ヨリ本院ノ送付ニ係ル日本銀行納付金ニ關スル法律案ハ兩院協議會ノ成案ヲ可決シタル旨通牒アリ
議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
明治三十年法律第十一號廢止法律案
提出者 內藤 守三君 小田 貫一君 山内吉郎兵衛君
望月 圭介君 井上角五郎君 島田 三郎君
和田 彦次郎君 宮原 幸三郎君 恆松 隆慶君
花井 卓藏君
特別委員長及理事左ノ通當選セラレタリ
明治三十年法律第三十九號中改正法律案
委員長 木村 誓太郎君 堀尾 茂助君
委員引直處分法案 山本 幸彦君 望月 長夫君
辯護士法中改正追加法律案 鮫島 相政君 粕谷 義三君
東京市ニ關スル法律案 新井 章 吾君 丸山巖藏一郎君
國有林野調査會設置ニ關スル建議案 委員長 工藤 行幹君 中埜 廣太郎君
委員長 長 奈須川 光 寶君 星野甚右衛門君
委員長 歲計豫算ニ關スル建議案 加藤 政之助君 高須 賀 纒君
委員長 水難救護法案 加藤 六藏君 佐藤 琢治君
委員長 家祿賞典祿處分法施行法案 濱名 信平君 鈴木儀左衛門君
委員長 日本興業銀行法案 松田 正久君 秋岡 義一君
委員長 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案 栗原 亮一君 武市 彰一君
委員長 明治二十二年法律第十號改正法律案 大三輪長兵衛君 國重 政亮君

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ會議ヲ開キマス  
○小山久之助君(九十三番) 唯今ノ政府ノ答辯ニ附イテ、尙ホ辯明ヲ得タイ  
コトガアリマスガ、責任ヲ持テ答辯ノ出來ル政府委員ガ出テ居リマスガ、議  
長ニ伺フテ置キマス

○議長(片岡健吉君) 質問ニ對シテノ説明デスカ  
○小山久之助君(九十三番) 左様デス  
○議長(片岡健吉君) ソレハ書面ヲ以テ成規ノ贊成ヲ得テ、御出シニナッタ  
宜カラウト思ヒマス

○小山久之助君(九十三番) 分ラナイノデアアル、答辯ガ分ラナイカラ、分ル  
ヤウニ答辯ヲシテ貰フノデスカラ、成規ノ贊成ヲ得ル必要ハナイダラウト思  
ヒマス  
○市島謙吉君(百七十五番) チョット議長ニ伺ヒタイノデゴザイマス、私ハ  
會議ニ先ダチマシテ決算委員長ニ質問ヲ致シタウゴザイマスガ、御許ニナリ  
マスカ

○議長(片岡健吉君) 決算委員會ノコトデスカ  
○市島謙吉君(百七十五番) 左様デス、先達テカラ決算ノコトニ附イテ質問  
ヲ致シタカッタノデスカ、偶、決算委員長ガ出テ居ラレナカッタノデ控ヘテ  
居リマシタ、然ルニ最早會期モ一週間以内デ終ラントシテ居ルト云フ今日デ  
ゴザイマス、是非トモ今日ノ場合ニ決算委員長ニ決議委員ノ諸君ニ一ツ伺  
テ置キタイコトガアル、ソレハ何デアアルカト申シマス、前議會即チ第十二  
議會ニ政府ヨリ提出セラレテ居リマス、二十七八年戰役ノ臨時軍事費ノ此決算  
ニ對シマシテハ、前議會ニ於テ私共モ其委員ノ一人デアアッテ、是ハ通常ノ決算  
ト違フガ故ニ、特ニ十分ノ審査ヲシナケレバナラヌト云フコトデ、特ニ委員  
ヲ設ケテ審査セシメタコトガゴザイマシタガ、諸君モ御承知ノ如ク決算ハ何  
時デモ議會ノ終ラントスル時分ニ出テ參リマスルガ故ニ、二億万圓餘ノ此大  
決算ニ對シマシテハ、中、十分ニ取調ヲスルコトガ出來マセヌタメニ、遂ニ  
調査未了ト云フコトデ、議會ガ解散ニナッタト云フ次第デゴザイマス、然ル  
ニ本員等ノ信ズル所ニ據リマスルコト云フト、決算ハ未了デアリマス以上ハ、  
本期議會ニ於テ此決算ヲ審査スルコト云フコトハ、當然ノコトデアアルト考ヘマ  
ス、御承知ノ如ク此決算ハ、即チ軍事費ニ關スル決算ハ、帝國議會開ケマシ  
テ以來未曾有ノ大決算デゴザイマス、然ルニ其決算ニ對シマシテハ、諸君モ  
御承知ノ通檢査院ト云フモノハ、恰モ當時此間ニ非常ナ物議ヲ招ギマシタ際  
デゴザイマシテ、檢査院ノ調査ニ對シテハ、滿天下疑ヲ容レテ居ルト云フ斯  
様ナ事實ガアル、然ルニ其決算ハ二億何万圓ト云フ程ノ非常ナ高ニ涉ッテ居  
リマス所ノモノデゴザイマスガ故ニ、一方ニ於テハ檢査院ガ不信用デアアル、  
一方ニ於テハ其決算ノ額ガ非常ニ多ク云フコトデアアル以上ハ、是ハ本期ノ  
議會ニ於キマシテモ、決算委員諸君ハ其職責ノ上ニ於テ、十分ナル審査ヲ遂  
ゲラル、コトガ至當デアアルト私ハ考ヘテ居ル、然ルニ此議會モ將ニ終ラント  
スル今日、ニ於キマシテ、決算委員ハ之ニ對シテドレダケノ程度マデ審査ヲ  
進メツ、アルモノデゴザイマスルカ、若クハ未ダ審査ヲ始メナイ譯デゴザイ  
マセウカ、如何ニモ決算ト云フ本年出マシタ所ノ決算ハ、ソレ先達配付ニナ  
リマシタ位ノコトデゴザイマスカラ、ソレ等ニ附イテマダ運ビガ附カヌコト  
デゴザイマセウガ、此二十七八年戰役ノ軍事費ニ附イテハ、議會ガ開ケマシ  
テカラ同時ニ決算委員ガ審査ヲ始メテ至當ノコトデアラウト、本員等ハ斯

様ニ考ヘテ居リマス、ソレデ私ハ第一ニ決算委員長ニ伺ヒタイノハ、今日ハ  
ドレダケノ運ビニナッタ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ、又未ダ少モ審査ニ著  
手シテ居ラヌト云フコトデゴザイマスナラバ、本員等ハ是ニ對シテ別段ノ考  
ヲ有ッテ居ル次第デゴザイマス、是ハ議會ノ議權ニ關シテモ、餘程大切ナコ  
トデアアルト考ヘマス、故ニ此場合ニ於テ一應決算委員長若クハ其コトニ當  
テ居ラル、所ノ當局ノ決算委員諸君ニ御尋シタイタメニ、斯様ナ質問ヲ致シ  
マス  
○議長(片岡健吉君) 決算委員長ハ出席ニナッタ居リマセヌヤウデスカ、委  
員ノ御方デモ……  
(「出席ニナッタ居リマス」ト呼フ者アリ)

○安川繁成君(百二十一番) 唯今御發議ニナリマシタ決算委員長ノ資格デ御  
答ヲセイト云フコトデゴザイマシタガ、決算委員長ハ二三日前ニ前ノ委員長  
ガ御辭シニナリマシテ、私ガ其決算委員長ト云フコトニナリマシテゴザイマ  
ス、ソレデ決算委員ノ會議ノ模様ヲ御話申シマスレバ、一兩回開キマシテ、  
政府ニ質問モ致シマシテゴザイマス、又各分科ノ方カラ分科ノ主査カラ致シ  
テ調ベルコトガアルカモ知レヌト思ヒマスケレドモ、ソレデ此前年度ノ檢査  
未了ノ分ト申シマス云フコト、二十四年度モ未了ニナッタ居リマスヤウデゴ  
ザイマス、是ハ大分遠イコトデゴザイマスガ、二十八年度ノ決算ガ決算委員  
ノ檢査未了デゴザイマス、ソレハ別問題デ、二十八年度ト云フコトデハゴザイ  
マセヌケレドモ、二十八七年臨時軍事費ノ檢査ト云フモノハ、未ダ決算委員  
ハ一向氣ヲ附ケマセヌノデゴザイマス、此兩年度ト云フモノニ附キマシテ  
モ、委員會ハ審査ヲスル必要ガアラウト云フコトデゴザイマシタガ、御承知  
ノ通二十九年度ノ決算ヲ政府ガ本院へ提出致シマシタノハ、本月ノ十六日カ  
十七日デゴザイマス、僅ニ殘ス所ニ二週間シカナイトキニ於テ、政府ガ提出シ  
タノデアリマス、アレダケ浩翰ノモノヲ夜ヲ日ニ繼イデ調べマシテ、調査  
スルコトハ出來ヌト云フ位ノ有様デゴザイマシテ、決算委員全體ハ前年ノ分  
ヲ審査シタイト云フコトニ決議ハ致シマシタガ、ヤルト云ウテモ昨日ガ許  
報告申上ゲタイト云フコト、折角今日モ會議ヲ開キマシタ、出來ルナレバ本院ニ御  
二十九年度ノ豫算委員ヲ言附ケラレタモノガ、二十八年度ニ及ブコトハ出來  
ナイト云フコトガゴザイマシテ、如何ニモ本院ノ規則ヲ見マスルコト云フト、  
命ゼラレタ所ノ外ハ出來ナイト云フヤウニナッタ居リマスカラ、前年ノ分ヲ  
ヤルト云フコトヲ本院ニ御諮リ願ヒマシテ、ヤルト云ウタラヤリタイト云  
フコトガ、決算委員集會ノ始テノ論デゴザイマシタガ、モウソレハ本院カラ  
許サレマシテモ出來マセヌ時日デゴザイマスガ故ニ、其コトハ止メマシテ、檢  
査未了ノモノハ後年度ニ於テモヤルコトガ——審査スルコトガ出來ルト云フ  
ヤウナ決議案デモ提出致シテ、諸君ノ御贊同ヲ仰イデ決議ヲ致シテ置キタイ  
ト云フ考デ、折角唯今此決議案ヲ相談致シテ居ル位デアリマス、先ツ是ガ  
二十九年度決算委員會ノ經過ノ大體デゴザイマス、是ダケ申上ゲテ御報告致  
シテ置キマス

○市島謙吉君(百七十五番) モウ暫ク——大略ハ分リマシテゴザイマスガ、

私ハ他ノ決算ノコトハ別ニ申シマセヌノデスガ、決算ノ中デ最モ大切ト信ズル二十七八年戦後ニ關スル軍事費ニ關シタダケノコトヲ御問シマシタノデ、是ハ既ニ前議會カラ提出シテアリマスカラ、決算委員諸君ハ其職責ノ上ニ於テ既ニ決算委員ト云フ常任委員ニ當ラレマシタ以上ハ、既ニ提出シテアル報告デアアルカラ、是ニ對シテハ直チニ御調ニナルノガ私共ハ至當デアアルト思フノデアアルガ、然ルニ是ヲ他ノ決算ノ出ルマデハ一向御構ヒニナラヌト云フハ、ドウ云フ譯デゴザイマスカ、是ハ委員長バカリヲ答ムルノデハナイノデ、他ノ委員諸君全部ニ涉ッテ開イテ置キタイト思ヒマス

○安川繁成君(百二十一番) 御尤デゴザイマス、御答致シマスガ、前年度ノ決算報告ト申シマスモノハ、前年ニ政府ガ提出致シマシテ、モウ今日假令二十七八年ノ決算若クハ二十七八年度ノ決算ヲヤルト致シマシテモ、政府ハ一度提出ヲ致シマスレバ、後ニハ再ヒ提出ハセヌト云フコトデ、案モ何モゴザイマセヌ、併ナガラ當時委員長ハ、之ヲヤルノガ當然デアアルガ故ニ、此議場ニ御諮リシテ、之ヲドウシタモノカト云フコトヲ提出致スノガ當然デアアルカ知レマセヌガ、私ハ兩三日前ニ委員長ト云フコトヲ提出致スノガ、其時分ノ責任ハナイト申上タルヨリ外ニ仕方ハゴザイマセヌケレドモ、併ナガラ繼續致シマシタ以上ハ、次ノ者ガセヌデモ貴様ガ惡ルイト言ヘバ、ソレハソレマデアリマスガ、併ナガラ本員ガ最初ニ開會ノ時分ニ此前年度ノコトヲ審查シナケレバ、帝國議會ハ此決算ヲ見ズニシマフト云フコトガアル、故ニ是ハ前年度ト雖モ審查ヲシナケレバナルマイト云フコトヲ發議致シマシテゴザイマス、大抵決算委員ノ諸君ハ之ニ同意ヲサレマシテゴザイマスガ、中ニハ又前ニ申上ケマシタ通ニ、二十九年年度ノ決算委員ヲ言附ケラレタモノガ、八年度ヲスルトカ、二十七年度ヲスルトカ云フ權能ハナイト云フコトデ、前ニ申上ケマシタ通議會ニソレヲ諮ラテ、サウシテソレヲ協贊ヲ經テヤレト云フコトナラバ、ヤラウト云フコトデアアリマシタ、所ガモウ既ニ殘ス所ガ一週間モナイノデゴザイマス故ニ、若シヤレト命ゼラレマシテモ、決シテ時日ガ許サナイデアアラウ、アノ浩翰ノモノヲ各分科ニ割ツタトシマシタ所ガ、決シテ其審查ハ出來マセヌ故ニ、前ニ申シマシタ通決議案ヲ出シテ、サウシテイツデモヤレト云フコトニシヤウカト云フコトニ、今協議ニナツテ居リマス譯ナンドゴザイマス、ソレデ如何ニモ御説ノ通二十七八年ノ軍事費ニ於キマシテハ、數億方ト云ッテ、二億方ノ金額デゴザイマスカラ、之ヲ此議會ガ無視シテ置クト云フコトハ、如何ニモ出來ヌコトデアアラウト存ジマス、併ナガラ前ニ申上ケマシタ通ノ經過デゴザイマスガ故ニ、如何トモ此場合ニ至ッテハ、スルトコトガ出來マセヌノデゴザイマスガ、併ナガラ院議ノ決スル所ニ依リマシテ、決議案デ遺ルトカ何ト云フコトニナリマスレバ、或ハ出來ルカ知レマセヌケレドモ、モウ今日ニ至リマシテハ、今ヤルト云フコトハ、モウ時日ガ許サヌト考ヘマス、本員モ固ヨリ其審查ヲスルハ國家ノタメ又議會ノ職責トシテ必要ト云フコトハ、御同感デゴザイマス、是ダケ御答申シテ置キマス

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御諮リスルトコトガアリマス、降旗元太郎君ヨリ鐵道敷設法中改正法律案外一件ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマシタ、御異議ハゴザイマスマイカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○關直彦君(五十五番) 五十五番ハ緊急動議ヲ提出致シタイ、ソレハ動産銀行法案ガ政府カラ配付ニナツテ居リマス、ソコデ此昨日カノ議事ニ上ホリマシタ興業銀行法案ノ委員會ガ、本日開カレマシテ引續イテ議事ニ掛ルト云フコトデアリマシタガ、此動産銀行ト云フモノモ殆ド同性質ノモノデアアル、ソレデ此動産銀行法案ガ委員ニ付託サレルノヲ待ツテ、共ニ開カレタガ宜カラウト云フコトデ、興業銀行ノ委員會ハ延會ニナツテ居リマスルノデ、相成ルベクハ此兩案ハ頗ル重大ナ件デゴザイマスカラシテ、此際日程ヲ變更シテ、動産銀行法案ノ第一讀會ヲ開キ、相成ルベクハ興業銀行ノ委員會ヘ——同一委員會ニ御付託ニナランコトヲ希望スルノデゴザイマス

○贊成々々ト呼フ者アリ

○松隆慶君(九十七番) 唯今動産銀行ノコトハ、固ヨリ贊成デゴザイマスガ、此所ニ又刑事訴訟法中改正法律案——既ニ貴族院カラ回付ニナツテ居リマスル、誠ニ會期モ切迫ニナリマシタカラ、是モ日程ヲ變更シテ今日委員ニ付託ナランコトヲ併テ望ンデ置キマス

○贊成々々ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 先ヅ關直彦君ノ緊急動議ニ附イテ、諸君ニ御諮リヲ致シマス、御異議ハゴザイマスマイカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ御異議ガナケレバ動産銀行法案ノ第一讀會ヲ開クコトニ致シマス、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

動産銀行法案(政府提出)

第一章 總則

第一條 動産銀行ハ株式會社トシ其ノ本店ヲ東京ニ置ク

第二條 動産銀行ノ資本金ハ一千萬圓トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ増加スルコトヲ得

第三條 動産銀行ノ株式ノ金額ハ百圓トス

第四條 動産銀行ノ存立時期ハ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ受ケテ之ヲ延長スルコトヲ得

第二章 重役

第五條 動産銀行ニ總裁一人理事四人以上監査役三人以上ヲ置ク

第六條 總裁ハ動産銀行ヲ代表ス

第七條 總裁ハ動産銀行ノ業務ヲ綜理ス

第八條 總裁ハ理事中ヨリ政府之ヲ命ス

第九條 總裁ハ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中ヨリ政府之ヲ命シ其ノ任期ヲ三箇年トス

第十條 監査役ハ三十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ヲ二箇年トス

第十一條 總裁及理事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ従事スルコトヲ得ス

第三章 營業

第十二條 動産銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第九條 動産銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

第一 國債證券、地方債證券、社債券及株券ヲ質トスル貸付

第二 國債證券、地方債證券、社債券ノ應募又ハ引受

第三 預リ金及保護預リ

第四 地方債證券、社債券及株券ニ關スル信託ノ業務

第十條 動産銀行ハ營業上餘裕金アルトキハ國債證券、地方債證券及社債券ヲ買入ヲ爲スコトヲ得

第十一條 動産銀行ハ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十二條 債券 動産銀行ハ拂込資本金額ノ五倍ヲ限リ債券ヲ發行スルコトヲ得但シ其ノ貸付金現在高及其ノ所有ニ係ル地方債證券及社債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第十三條 債券ハ券面金額五十圓以上トシ無記名利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ因リ記名ト爲スコトヲ得

第十四條 動産銀行ニ於テ債券ヲ發行セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 動産銀行ノ債券ノ利子ハ毎年二回以上之ヲ支拂ヒ其ノ元金ハ發行ノ年ヨリ三十箇年以内ニ抽籤ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十六條 動産銀行ハ其ノ債券借換ノ爲低利ノ債券ヲ發行スル場合ニ於テハ第十二條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十七條 債券ヲ發行シタルトキハ發行後三箇月以内ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊債券ヲ償還スヘシ

第十八條 準備金 動産銀行ハ每營業年度準備金トシテ資本ノ缺損ヲ補フ爲利益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且ツ利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲利益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

第十九條 政府ノ監督及補助 政府ハ動産銀行ノ業務ヲ監督ス

第二十條 動産銀行ニ於テ支店又ハ代理店ヲ設置セントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 動産銀行ハ株主ニ配當金ノ分配ヲ爲サントスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 主務大臣ハ動産銀行ノ營業上法律命令又ハ定款ニ背戻シ若クハ公益ヲ害スル事件アリト認ムルトキハ之ヲ制止スヘシ

第二十三條 動産銀行ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ營業ニ關スル諸般ノ景況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十四條 主務大臣ハ特ニ動産銀行監理官ヲ置キ動産銀行ノ業務ヲ監視セシム

第二十五條 動産銀行監理官ハ何時ニテモ動産銀行ノ金庫、券書庫、帳簿及諸般ノ文書ヲ検査スルコトヲ得

動産銀行監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十六條 動産銀行ノ配當金ニシテ每營業年度ニ於テ年百分ノ五ノ割合

ニ達セサルトキハ政府ハ創立初期ノ末日ヨリ五箇年間ヲ限リ之ニ達セシムヘキ金額ヲ補給スヘシ但シ其ノ補給額ハ如何ナル場合ト雖拂込資本金ノ百分ノ五ヲ超過スルコトヲ得ス

第七章 罰則 第二十七條 動産銀行ニ於テ左ノ事犯アリタルトキハ總裁及理事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス但シ事犯ニ關セサルモノハ此ノ限ニアラス

一 本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルト

二 第十一條ノ規定ニ反シ此ノ法律ニ記載セサル業務ヲ營ミタルトキ

三 第十二條第十六條ノ規定ニ反シ債券ヲ發行シタルトキ

第二十八條 動産銀行ノ總裁及理事第八條ノ規定ヲ犯シタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十九條 動産銀行ノ發行スル債券ヲ偽造又ハ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ノ例ニ依リ處罰ス其ノ模造ニ關シテハ明治二十八年法律

第二十八號通貨及證券模造取締法ニ依リ處分ス

附則 第二十條 政府ハ設立委員ヲ置キ動産銀行ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第三十一條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集ス

第三十二條 設立委員ハ株主ヲ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ動産銀行設立ノ認可ヲ稟請スヘシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十三條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ動産銀行總裁ニ引渡スヘシ

協坂行三君(八十二番) 中央工業試験所ノ特別委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ、退席ヲ請ヒマス

議長(片岡健吉君) 協坂行三君カラ中央工業試験所設立ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタリト云フコトデゴザイマスガ、御異議ハゴザイマスマイカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕 議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

〇 恆松隆慶君(九十七番) 唯今ノ日程變更デスガ、政府ガ提出ノ理由デモ御説明ニナルノデゴザイマスガ、マアナサレヌデモ片方デ此案ヲ待ツテ會ヲ開キタイト云フ位急ニ迫ッテ居ル、寧ロ直チニ同一議員ニ付託シテ宜カラウト思ヒマスガ、若シ説明ガアルナラバ、此際説明アラントコトヲ望ミマス

議長(片岡健吉君) 是ハ格別質問モアリマセズ、政府委員モ説明ヲシナイヤウデアリマスガ、是ハ興業銀行ノ委員ニ付託スルコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕 議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通決シマス

〇 喜多川孝經君(二十一番) 是カラ決算委員ノ主査會ヲ開キタウゴザイマスカラ、退席シテ宜シウゴザイマスガ

議長(片岡健吉君) 喜多川孝經君カラ決算委員會ノ主査會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○松田正久君(百六十二番) 唯今動産銀行ノ法案ガ、前ノ日本興業銀行ノ委員會ニ付託サレタルコトニナリマシタカラ、是ヨリ委員會ヲ開キタウゴザイマスガ、御許ヲ願ヒタイ

○議長(片岡健吉君) 松田正久君カラ、是ヨリ動産銀行法案及興業銀行法案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 今恆松隆慶君カラ提出シマシタ緊急動議、刑事訴訟法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、議事日程ヲ變更シテ、本案ノ第一讀會ヲ開キマス

刑事訴訟法中改正法律案(政府提出貴族院送附)

第一讀會

刑事訴訟法中改正法律案

刑事訴訟法中左ノ通改正ス

第二十條第二項中「若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ官吏、公吏ノ面前ニ於テ作リタル場合ヲ除ク外立會人代署シ其事由ヲ記載ス可シ」ヲ削ル

第二十一條 官吏、公吏訴訟ニ關スル書類ノ原本、正本又ハ謄本ヲ作ルニ付キ文字ヲ改竄ス可カラス若シ挿入、削除及欄外ノ記入アルトキハ之ニ認印ス可シ文字ヲ削除スルトキハ之ヲ讀ミ得ヘキ爲メ字體ヲ存シ其數ヲ記載ス可シ此規定ニ背キタルトキハ其變更増減ノ效ナカル可シ

第二十一條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第二十一條ノ二 官吏、公吏ニ非サル者ノ署名捺印ス可キ場合ニ於テ捺印スルコト能ハサルトキハ署名ノミヲ爲シ署名スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ捺印ノミヲ爲シ若シ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシム可シ

立會人ハ其代署ノ事由ヲ記載シテ署名シ又ハ署名捺印ス可シ  
官吏、公吏ノ面前ニ於テハ本人署名スルコト能ハサル場合ト雖モ立會人ヲ要セス官吏、公吏代署シテ其事由ヲ附記ス可シ

第七十七條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
勾引狀、勾留狀ヲ執行スルニハ其正本ヲ携帶シ被告人ノ請求アルトキハ之ヲ示スコシ

同條ニ左ノ二項ヲ加フ  
勾引狀、勾留狀ヲ執行シタルトキハ其正本ニ執行ノ場所及日時ヲ記載シ若シ執行スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載シテ署名捺印ス可シ

巡查、憲兵卒ハ令狀ニ關スル書類ヲ檢事ニ差出スコシ  
第八十三條削除

第八十四條 在監中ノ被告人ニ對シ發シタル勾留狀ハ司獄官吏ヲシテ之ヲ執行セシム

勾留狀執行ニ關シテハ第七十七條ノ規定ヲ適用ス  
第八十五條 勾留ヲ受ケタル被告人ハ官吏ノ立會ニ依リ他人ト接見スルコトヲ得

書類其他ノ物件ハ豫審判事 ○又ハ檢事 ○又ハ檢事

豫審判事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリト思料シタルトキハ被告人ノ監房ヲ別異シ、他人トノ接見、書類物件ノ授受ヲ禁シ又ハ其書類物件ヲ差押フルコトヲ得

第二節密室監禁第八十七條第八十八條及第八十九條削除  
第三百三十六條ニ左ノ一項ヲ加フ  
第三百六十一條ノ規定ハ鑑定人ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第一百五十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第一百五十八條ノ二 保釋ヲ許ササル言渡ニ對シテハ其裁判所ヘ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聞キ其許否ヲ決定ス可シ  
第七十八條 裁判長ハ何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾引狀又ハ勾留狀ヲ發スルコトヲ得

裁判所ハ被告人ヲ訊問シタル後何時ニテモ禁錮以上ノ刑ニ該ル可キ被告人ニ對シ勾留狀ヲ發スルコトヲ得  
第七十九條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ  
第七十九條ノ二 左ノ場合ニ於テ被告人自ラ辯護人ヲ選任セサルトキハ裁判所ハ檢事ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ辯護人ヲ付スルコトヲ得

第一 被告人十五歳未満ナルトキ  
第二 被告人婦女ナルトキ  
第三 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルト疑アルトキ  
第四 被告人精神病ニ罹リ又ハ意識不十分ナルト疑アルトキ  
第五 被告事件ノ機嫌ニ因リ裁判所ニ於テ辯護人ヲ必要ナリトスルトキ

前項ノ辯護人ハ裁判長ノ職權ヲ以テ其裁判所屬ノ辯護士中ヨリ選任ス可シ但辯護士一名ヲシテ被告人數名ノ辯護ヲ爲サシムルコトヲ得  
第二百三條 刑ノ言渡ヲ爲スニハ罪トナルヘキ事實及ヒ證據ニ依リテ之ヲ認メタル理由ヲ明示シ且法律ヲ適用シ其理由ヲ付ス可シ  
無罪又ハ免訴ノ言渡ヲ爲スニ付テモ亦其理由ヲ明示スヘシ

○恆松隆慶君(九十七番) 是ハ矢張委員ニ付託ニナル例デアアルト思ヒマス、直チニ九名ノ委員ヲ議長ノ指名アラントト希望致シマス

右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君カラ九名ノ特別委員ニ付託スルト云フ動議ガ出マシタガ、是ハ議長ガ指名致シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕  
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通決シマス——是ヨリ議事日程ノ第一、臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判權ニ關スル法律案、第二讀會ノ續

第一 臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ 第二讀會ノ續  
○議長(片岡健吉君) 此案ハ過日第二條ニ修正ガアリマシテ、ソレヘ贊成シテ三條以下ハ色々質問ノアツタ結果デ、二讀會中ノ儘延期ニナツテ居ルノデゴザイマスガ、併シ此場合ハ後トニ返ツテ幾ラ考ガアツテモ意見ハ出セ

第一 臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ 第二讀會ノ續

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通決シマス——是ヨリ議事日程ノ第一、臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判權ニ關スル法律案、第二讀會ノ續

第一 臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ 第二讀會ノ續

マセヌカラ、先ヅ三條以下ハ全部原案ヲ宜シト云フ意見デ、此場合決議ニナランコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 本案ハ今恆松隆慶君ノ申サル、通、本月ノ八日ニ第一條第二條ヲ決シテ、第三條以下全部ヲ議題ニ供シタ儘延期ニナラヌ案デスカラ、今日ハ第三條ヨリ以下全部ヲ議題ニ供シマス

○議長(片岡健吉君) 呼フ者アリ

○恆松隆慶君(九十七番) 此案ニハ別段質問ヲ要スルコトモナシ、原案ニ委員會ガ手ヲ入レテナイカラ、ドウカ直チニ委員長ガ申サレマシタ通、原案ニ贊成アラシコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ直チニ第二讀會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 呼フ者アリ

ゴザイマス、ドウゾ御協賛アラシコトヲ望ミマス  
○恆松隆慶君(九十七番) 是ハ九名ノ委員ヲ議長ガ今日指名ニナラシコトヲ希望致シマス  
○議長(片岡健吉君) 議事日程ノ第四ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉  
○議長(片岡健吉君) 九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名シテ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通決シマス、議事日程ノ第五、船舶法案第一讀會、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第五 船舶法案(政府提出) 第一讀會

船舶法案

船舶法

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス  
一 日本ノ官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶  
二 日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶  
三 日本ニ本店ヲ有スル商事會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及ヒ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 日本ニ主たる事務所ヲ有スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶  
舊商法ノ規定ニ從ヒテ設立シタル合資會社ニ在リテハ業務擔當社員ノ全員カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶ヲ以テ日本船舶トス  
第二條 日本船舶ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲クルコトヲ得ス  
第三條 日本船舶ニ非サレハ不開港場ニ寄港シ又ハ日本各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但法律若クハ條約ニ別段ノ定アルトキ、海難若クハ捕獲ヲ避ケントスルトキ又ハ主務大臣ノ特許ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ日本ニ船籍港ヲ定メ其船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ船籍ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ要ス  
船籍港ヲ管轄スル管海官廳ハ他ノ管海官廳ニ船籍ノ積量ノ測定ヲ囑託スルコトヲ得  
外國ニ於テ取得シタル船舶ヲ外國各港ノ間ニ於テ航行セシムルトキハ船舶所有者ハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ニ其船舶ノ積量ノ測定ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス  
第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船

籍港、番號、積量、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス  
第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス  
第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス  
第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス  
第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス  
第十二條 船舶國籍證書ガ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更ニ之ヲ請受クルコトヲ要ス  
第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ其他ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

日本船舶カ外國ニ航行スル途中ニ於テ前項ノ事由カ生シタルトキハ船長ハ最初ニ到著シタル地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
後最初ニ到著シタル地ニ於テ之ヲ請受クルコトヲ能ハサルトキハ其後四條ノ國籍簿ヲ喪失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ抹消ノ登録ヲ爲シ且遲滞ナク船舶國籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス  
第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ受得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船籍港ヲ定メサルトキハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ超ユルコトヲ得ス  
日本ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ六個月ヲ超ユルコトヲ得ス  
前二項ノ期間ヲ超ユルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ更ニ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得  
第十八條 船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ  
第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス  
第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未滿又ハ積石數三百石未滿ノ船舶及ヒ端舟其他櫓櫓ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓櫓ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス  
第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積量ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非スシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ヲ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ情狀重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケントスル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

日本船舶カ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦前項ニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ船舶ヲ沒收ス

第二十四條 官吏ヲ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登錄ヲ爲サシメタル者ハ二月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リテ處斷ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法數人共犯ノ例ヲ適用セス

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商業會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官之ヲ行フ

附則 第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年 法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行爲ヲ爲ス目的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公署ノ所有ニ屬スル船舶ニ付テハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ牴觸スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登簿船免狀又ハ船鑑札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

從ヒ登錄ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ從ヒテ船舶國籍證書ヲ請受クルマテハ登簿船免狀又ハ船鑑札ハ船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス

第三十八條 本法施行ノ際登簿船免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受クヘキ場合ニ於テハ其假免狀ハ有效期間

ノ滿了ニ至ルマテハ假船舶國籍證書ト同一ノ效力ヲ有ス但船舶カ船籍港ニ到著シタルトキハ此限ニ在ラス

登簿船假免狀ノ有效期間カ滿了シタルトキト雖モ已ムコトヲ得サル事由アルトキハ船長ハ假船舶國籍證書ヲ請受クルコトヲ得

第三十九條 第十四條ノ規定ハ本法施行前ニ同條ニ掲ケタル事由カ生シタルモ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサル場合ニ之ヲ準用ス但同條ニ定メタル二週間ノ期間ハ船舶所有者カ本法施行前ニ事實ヲ知りタルトキト雖モ其施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

本法施行前ニ踪跡ヲ失ヒタル船舶ニシテ未タ登簿船原簿ノ削除ヲ請ハサルトキ亦同シ

前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條及ヒ第三十一條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四十條 本法施行前ヨリ存否カ分明ナラサル船舶ニシテ未タ舊法ノ期間カ經過セサルモノニ付テハ第十四條ニ定メタル六個月ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

〇恆松隆慶君(九十七番) 序ニ此七モ併テ御說明ニナリ、又委員モ同一ノ委員ニ付託シタ方宜カラウト思ヒマス、ドウカ日程ガ一緒ニナリマスコトナラバ、サウ願ヒマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)

〇議長(片岡健吉君) ソレナラ第七ノ日程モ一緒ニ致シマス、船員法案第一讀會、是モ議案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第七 船員法案(政府提出)

第一章 總則

第二章 船員手帖

第三章 船長

第四章 海員

第五章 紀律

第六章 罰則

附則

第一章 總則

第一條 本法ハ日本船舶ノ船員ニ之ヲ適用ス但湖川、港灣ノミヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ船員ニ付テハ此限ニ在ラス

第二條 本法ニ於テ船員トハ船長及ヒ海員ヲ謂ヒ海員トハ船長以外ノ一切ノ乘組員ヲ謂フ

第二章 船員手帖

第三條 日本ニ於テ船員ト爲ラント欲スル者ハ管海官廳ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

申請人ハ戸籍吏ノ書面其他ノ公正證書ニ依リテ左ノ事項ヲ證スルコトヲ要ス但申請人カ其本籍地又ハ寄留地ニ於テ申請ヲ爲ス場合ニ於テ其他ノ管海官廳カ戸籍吏ノ職務ヲ行フトキハ此限ニ在ラス

一 氏名  
 二 本籍地  
 三 身分  
 四 出生ノ年月日

第四條 未成年者カ船員ト爲ルニハ其法定代理人ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

未成年者カ船員手帖ノ交付ヲ申請スルニハ前條第二項ニ掲ケタル事項ノ外前項ノ許可ヲ得タル旨ヲ證スルコトヲ要ス

第五條 船員ト爲ルコトヲ許サレタル未成年者ハ雇傭契約ニ關シテハ成年者ト同一ノ能力ヲ有ス

第六條 外國ニ於テ船員ト爲リタル者カ日本ニ到著シタルトキハ其到著ノ日ヨリ一个月内ニ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七條 船員手帖ニ記載シタル事項ニシテ第三條第二項ニ掲ケタルモノニ錯誤アリタルトキ又ハ同條第二項第一號乃至第三號ニ掲ケタルモノニ變更ヲ生シタルトキハ船員ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ管海官廳ニ船員手帖ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ錯誤又ハ變更ノ事實ヲ知リタルトキハ前項ノ期間ハ其船員カ日本ニ到著シタル日ヨリ之ヲ起算ス

第八條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條 船員手帖カ滅失シタルトキハ船員ハ遲滞ナク更ニ其交付ヲ申請スルコトヲ要ス

船員手帖カ毀損シタルトキハ船員ハ遲滞ナク其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十條 船員カ日本ニ在ラサル間ニ於テ船員手帖カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船員カ日本ニ到著シタル後遲滞ナク船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 第三條第二項及ヒ第四條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 船員カ廢業ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク管海官廳ニ其船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

船員カ死亡シタルトキハ其船員手帖ヲ保管スル者之ヲ返還スルコトヲ要ス

第三章 船長

第十三條 船長ハ海員ヲ指揮、監督シ及ヒ船中ニ在ル者ニ對シ其職務ヲ行フニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十四條 船長ハ管海官廳ノ命令アリタルトキハ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ要ス

第十五條 船舶カ港灣ヲ出入スルトキハ狹隘ナル水路ヲ通過スルトキ其他危險ノ虞アルトキハ船長ハ甲板ニ在リテ自ラ船舶ヲ指揮スルコトヲ要ス

第十六條 日本ト外國トノ間又ハ外國各港ノ間ヲ航行スル船舶カ外國ノ港ニ入港シ又ハ日本ニ到著シタルトキハ船長ハ二十四時間内ニ其港ノ管海官廳ニ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ航海日誌ヲ提出シテ其檢閲ヲ受クルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ船舶カ入港ノ時ヨリ十二時間内ニ發航スル場合ニハ之ヲ適用セズ

管海官廳ハ必要ナル書類ノ提出ヲ命シ又ハ船員、旅客其他船中ニ在リタル者ヲ呼出タシテ訊問ヲ爲スコトヲ得

第十七條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

一 豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

二 人命又ハ船舶ヲ救ヒタルトキ

三 衝突其他ノ海難カ生シタルトキ

四 船舶カ捕獲セラレタルトキ

五 船中ニ於テ死亡シタル者アリタルトキ

六 船舶カ豫定セサル港ニ寄港シタルトキ又ハ前項第二號乃至第五號ニ掲ケタル事由カ碇泊中ニ生シタルトキハ船長ハ其港ノ管海官廳、若シ其港ニ管海官廳ナキトキハ其後最初ニ到著シタル港ノ管海官廳ニ出頭シテ其報告ヲ爲スコトヲ要ス

第十八條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テハ船長ハ報告書ヲ作リ其認證ヲ申請スルコトヲ得

第十九條 船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ船長ハ人命、船舶及ヒ積荷ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且旅客、海員其他船中ニ在ル者ヲ去ラシメタル後ニ非サレハ其指揮シタル船舶ヲ去ルコトヲ得ス

第二十條 船舶カ衝突シタルトキハ船長ハ互ニ人命及ヒ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡シ且船舶ノ名稱、船籍港、發航港及ヒ到達港ヲ告グルコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十一條 船長カ航海中救援ヲ求ムル船舶ヲ認メタルトキハ人命ヲ救フコトヲ要ス但自己ノ指揮スル船舶ニ急迫ノ危險アルトキハ此限ニ在ラス

第二十二條 海員カ船中ニ於テ死亡シタルトキハ船長ハ其船中ニ在ル遺産ヲ保管スルコトヲ要ス

第二十三條 外國ニ駐在スル日本ノ公使、領事又ハ貿易事務官カ法令ノ定ムル所ニ依リ日本臣民ヲ日本ニ送還スヘキコトヲ命シタルトキハ船長ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

送還費用ノ償還ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 船長ハ其指揮セントスル船舶ニ乗込ム前ニ其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ就職ノ認證ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ就職ノ認證ヲ得タル船長カ其職ヲ退キタルトキハ遲滞ナク退職ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十五條 船長カ死亡シタルトキ、船舶ヲ去リタルトキ又ハ之ヲ指揮スルコト能ハサルニ至リタル場合ニ於テ他人ヲ選任セサルトキハ運輸ニ從事スル海員ハ其職掌ノ順位ニ從ヒテ船長ノ職務ヲ行フ

第四章 海員

第二十六條 海員ノ雇入若クハ雇止ヲ爲シ又ハ雇入契約ノ更新若クハ變更ヲ爲シタルトキハ管海官廳ニ海員名簿ヲ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條 管海官廳カ公認ヲ爲スニハ海員名簿ニ記載シタル事項ヲ當事者雙方ニ讀聞カセタル後之ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス但海員ノ雇止ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由アルトキハ當事者ノ一方カ出頭セサルトキト雖モ公認ヲ爲スコトヲ得

當事者カ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル若シ署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ規定ニ依リ捺印セズ又ハ氏名ヲ代署セシメ若クハ捺印シタル場合ニ於テハ海員名簿ニ其事由ヲ附記スルコトヲ要ス

第二十八條 當事者ハ正當ノ理由アル場合ニ限り代理人ヲシテ公認ヲ受ケシムルコトヲ得

第二十九條 公認アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク其船員手帖ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ノ認證ヲ申請スルコトヲ要ス

第三十條 海員ノ雇止ニ關シテ爭アルトキハ當事者ノ一方ハ管海官廳ニ其事由ヲ申立テ雇止ノ公認ヲ申請スルコトヲ得

管海官廳カ前項ノ申請ヲ正當ナリト認メタルトキハ當事者雙方ヲ呼出テシ海員名簿及ヒ船員手帖ヲ提出セシメテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ要ス

當事者ノ一方カ出頭セサルトキハ管海官廳ハ相手方ノ申立ニ因リテ雇止ノ公認ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ海員名簿及ヒ船員手帖ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ海員名簿又ハ船員手帖ノ提出ヲ強制スルコトヲ得

第三十一條 船長ハ海員ノ雇入期間中其船員手帖ヲ保管スルコトヲ要ス

第三十二條 海員カ雇入期間中船員手帖ヲ返還スルコトヲ要ス

第三十三條 海員ハ雇止アリタル場合ニ於テハ船長ニ對シ其職務ノ執行又ハ品行ニ關スル證明書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第三十四條 海員名簿カ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ更ニ海員名簿ヲ作り之ヲ管海官廳ニ提出シテ公認ヲ申請スルコトヲ要ス

第二十七條及ヒ第二十八條ノ規定ハ海員名簿及ヒ海員手帖カ共ニ滅失又ハ毀損シタル場合ニ之ヲ準用ス但原管海官廳ニ公認ヲ申請スルトキハ此限ニ在ラス

第三十五條 海員カ雇入期間中第九條又ハ第十條ノ規定ニ依リテ船員手帖ノ交付又ハ書換ヲ申請シタル場合ニ於テ其交付又ハ書換アリタルトキハ海員ハ遲滞ナク第二十九條ニ定メタル手續ヲ爲スコトヲ要ス

第五節 紀律

第三十六條 左ノ場合ニ於テハ船長ハ海員ヲ懲戒スルコトヲ得

一 海員カ上長ニ對シテ尊敬又ハ從順ノ道ヲ失ヒタルトキ

二 海員カ其職務ヲ怠リタルトキ

三 海員カ他ノ海員ノ職務執行ヲ妨ケタルトキ

四 海員カ喧嘩シタルトキ

五 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ船舶ヲ去リタルトキ又ハ船長カ指定シタル時マデニ歸船セザリタルトキ

六 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ點火又ハ焚火シタルトキ

七 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ端艇ヲ使用シタルトキ

八 海員カ食料又ハ飲料ヲ濫費シタルトキ

九 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ酒類ヲ所持スルトキ又ハ吸煙シルタ

十 海員カ酩酊シテ事ヲ省セサルトキ

十一 其他海員カ船中ノ秩序ニ反スル行爲ヲ爲シタルトキ

第三十七條 懲戒ハ左ノ四種トス

一 監禁

二 上陸禁止

三 加役

四 減給

第三十八條 監禁ハ三日以下トシ船中ノ一室ニ拘置ス

上陸禁止ハ七日以下トス此期間ニハ船舶ノ碇泊日數ノミヲ算入ス

加役ハ七日以下トシ常務時間外ニ於テ役務ニ服セシム但一日二時間ヲ超スルコトヲ得ス

減給ハ給料月額十分ノ一以下トス

第三十九條 前條第一項乃至第三項ノ期間ニハ初日ヲ算入ス

第四十條 懲戒ノ適用ハ行爲ノ輕重ニ從ヒ船長之ヲ定ム但二種以上ノ懲戒ヲ併科スルコトヲ得ス

第四十一條 海員カ兇器、爆發若クハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物又ハ酒類ヲ所持スルトキハ船長ニ於テ其物ヲ保管又ハ放棄スルコトヲ得

第四十二條 海員カ人身又ハ船舶ニ危害ヲ及ボスヘキ行爲ヲ爲サントスルトキハ船長ハ必要ノ期間内其海員ノ身體ヲ拘束スルコトヲ得

第四十三條 船長ハ必要アルトキハ旅客其他船中ニ在ル者ニ對シテモ前二條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條 海員カ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキ又ハ船長ノ許可ヲ得スシテ之ヲ去リタルトキハ船長ハ乗船ヲ強制スルコトヲ得

第四十五條 船長ノ命令ニ服從セサル者アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ船長ハ海軍ノ艦船、地方官廳又ハ管海官廳ニ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六章 罰則

第四十六條 詐僞ノ所爲ヲ以テ船員手帖ノ交付ヲ受ケタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

詐僞ノ所爲ヲ以テ海員名簿ニ公認ヲ受ケ又ハ船員手帖ニ認證ヲ受ケタル者亦同シ

第四十七條 第七條、第九條、第十條、第十二條、第二十九條、第三十二條又ハ第三十五條ノ規定ニ反シ船員手帖ノ交付、訂正若クハ公認ノ認證ヲ申請シ又ハ船員手帖ヲ返還スルコトヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十八條 虛僞ノ海員名簿又ハ船員手帖ヲ行使シタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

公認ヲ受ケタル海員名簿又ハ認證ヲ受ケタル船員手帖ヲ増減、變換シテ行使シタル者亦同シ

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ正當ノ理由ナクシテ商法第五百六十二條第一項ニ掲ケタル書類ヲ船中ニ備ヘサルトキ又ハ之ヲ毀棄シタルトキ

二 船長カ第十四條ノ規定ニ反シテ書類ノ提出ヲ拒ミタルトキ

三 船長カ商法第五百六十二條第一項乃至第五號ニ掲ケタル書類ノ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

四 船長カ第十七條第一項又ハ第二項ノ場合ニ於テ虛僞ノ報告ヲ爲シタルトキ

第五十條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船長カ商法第五百六十一條ノ検査ヲ爲サスシテ發航ヲ爲シタルトキ

二 船長カ船泊ヲ安全ニ碇泊セシメ且商法第五百六十三條ノ規定ニ從ヒ其職務ヲ委任セシメテ船泊ヲ去リタルトキ

三 船長カ必要ナクシテ豫定ニ反シテ航路ヲ變更シタルトキ

四 船長カ必要ナクシテ豫定ノ航路ヲ變更シタルトキ

第五十一條 船長カ第十六條第一項ノ航路ヲ變更シタルトキ

第三十一條 船長カ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 船長カ第十九條ノ規定ニ違反シタルトキハ二月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十三條 船長カ第二十條ノ規定ニ反シテ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ盡ササルトキハ一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 船長カ第二十一條ノ規定ニ違反シタルトキハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 船長カ急迫ノ危險アル場合ニ於テ海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ其船舶ヲ去リタルトキハ十一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五十六條 第十九條又ハ第二十條ノ場合ニ於テ船長カ人命又ハ船舶ノ保護ニ必要ナル手段ヲ爲スニ當タリ海員カ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 船長カ第二十三條第一項ノ規定ニ反シテ送還ノ命令ヲ拒ミタルトキハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 船舶所有者又ハ船長カ第二十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 船長カ第三十三條ニ定メタル證明書ヲ交付セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル證明書ヲ交付シタルトキハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第六十條 船長カ第三十四條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十一條 海員カ雇入手續ノ終ハリタル後正當ノ理由ナクシテ船長ノ指定シタル時ニ於テ船舶ニ乗込マサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 船長カ第五章ニ定メタル處分ヲ爲スニ當タリ海員ニ助力ヲ爲スヘキコトヲ命シタル場合ニ於テ海員カ其命令ニ服從セサルトキハ十一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十三條 船員、旅客其他船中ニ在リタル者カ本法ノ規定ニ依リ管海官廳ヨリ呼出ヲ受ケ又ハ書類ノ提出ヲ命セラレタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ之ニ應セサルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十四條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ二十四時間以上船中ニ在ラサルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

海員カ外國ニ於テ前二項ノ罪ヲ犯シタルトキハ一等ヲ加フ

第六十五條 船長カ正當ノ理由ナクシテ船舶ヲ遺棄シタルトキハ一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス

船長カ外國ニ於テ正當ノ理由ナクシテ海員ヲ遺棄シタルトキハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

第六十六條 海員カ船長ノ許可ヲ得スシテ兇器、爆發又ハ發火シ易キ物、劇藥其他ノ危險物ヲ所持スルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十七條 故ナク船體若クハ機關ノ要部ヲ毀損シ又ハ重要ナル屬具ヲ毀損若クハ放棄シタル者ハ十一月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯シテ船舶ノ運航ヲ妨ケタルトキハ一等ヲ加ヘ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ重懲役ニ處ス

第六十八條 船舶ノ運航ヲ妨グル目的ヲ以テ前條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ハ重懲役ニ處シ因テ船舶ヲ覆没シ又ハ人ヲ死ニ致シタルトキハ刑法第百六十九條ノ例ニ依リテ處斷ス

第六十九條 海員カ上長ニ對シテ脅迫ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ刑法第三百二十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニハ之ヲ適用セズ

第七十條 海員カ上長ニ對シテ毆打創傷ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法各本條ノ例ニ照シ一等ヲ加フ

第七十一條 船長カ旅客、海員其他船中ニ在ル者ニ對シテ其職權ヲ濫用シ又ハ虐待ヲ爲シタルトキハ十一月以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ八十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シテ人ヲ疾病、死傷ニ致シタルトキハ前條ノ例ニ依リテ處斷ス

第七十二條 海員カ相黨與シテ左ノ行爲ヲ爲シタルトキハ各號ノ區別ニ依リテ處斷シ首魁ハ一等ヲ加フ

一 職務ニ服從セズ又ハ上長ノ命令ニ服從セサルトキハ十一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

二 脫船シタルトキハ十一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處ス

三 第六十九條又ハ第七十條ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條ノ例ニ照シテ一等ヲ加フ

第七十三條 船員カ著シク其職務ヲ怠リ因テ船舶ヲ毀損若クハ覆没シ又ハ人ヲ死傷ニ致シタルトキハ十一月以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ八十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十四條 本章ノ規定中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第七十五條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ關シテハ勅令ヲ以テ別ニ本法施行ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

第七十六條 明治十二年第九號布告西洋形船海員雇入雇止規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但本法施行前ニ同規則ニ定メタル罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキハ本法施行ノ後ト雖モ其罰則ヲ適用ス

第七十七條 船員ハ本法施行ノ日ヨリ六個月間ハ船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要セズ

前項ノ期間經過ノ後ハ船員ハ遲滞ナク船員手帖ノ交付ヲ申請スルコトヲ要ス

第七十八條 從來ノ海員名簿ハ本法施行ノ日ヨリ六ヶ月間ハ商法ニ定メタル海員名簿ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ期間内ニ公認アリテモキハ其期間經過ノ後ト雖モ其後始メテ公認アリテハ從來ノ海員名簿ハ仍ホ其效力ヲ有ス

第七十九條 本法ノ規定ニ依リ管海官廳カ行フヘキ事務ニ付テハ主務大臣ハ市町村長 市制又ハ町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ局長又ハ之ニ準スヘキ者ヲシテ其事務ヲ行ハシムルコトヲ得

第八十條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣之ヲ定ム

〔政府委員湯河元臣君演壇ニ登ル〕

○政府委員(湯河元臣君) 船舶法案ノ提出ノ理由ヲ述ベマヌル、此法案ニ規定シテアリマヌル事柄ハ、船舶ノ原則ニナリマヌル事柄ナリ、船舶ノ國籍ノ重ナル事項デアリマヌル、是等ノ事柄ニ關係シテハ、現行ノ規則ハ、明治ノ初年頃ニ出來タモノガ多クアリマヌル、甚ダ不完全ニ規定ガ多ク、取扱上困リマヌルニ依リテ、其不完全ナル點ヲ補ヒ、且ツ此事柄ト云フモノハ、條約ノ改正商法ノ修正ニ密接ノ關係ガアリマヌルニ附イテ、茲ニ提出ヲ致シマシタル譯デアリマヌル、此案ハ前期ノ議會ニ一度貴族院ヲ可決致シマシテ、其儘ニナリテ居リマヌルモノデ、其以來多少ノ研究ヲ致シ修正ヲ加ヘテ、今提出ヲ致シマシタ、ドウゾ速ニ御贊成ヲ願ヒマヌル、船舶法案提出ノ理由ハ、現今海運ノ擴張ニ伴ヒマシテ、船長及船舶乘組員ノ權利義務ヲ規定スル法案ガ不備デアリマシテ、航海ノ發達ヲ妨グルコトガ少クアリマヌルニ依リテ、其缺漏ヲ補フコトガ、重ナル目的デ、是モ矢張商法修正案ニ關係ヲ致シテ居リマヌルニ依リテ、此度提出ヲ致シ、且ツ矢張船舶法同様に前期ノ貴族院ヲ可決致シタモノデアリテ、幾分カノ研究ヲ加ヘ修正ヲ加ヘテ、更ニ提出ヲ致シマシタ、ドウゾ速ニ御協贊ヲ願ヒマヌル

○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガナケレバ、特別委員ノ選舉

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君カラ此二ノ案ハ、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名スルト云フ動議ガ出マシタガ、御異議アリマヌマイカ

〔異議ナシ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガアリマヌナレバ、議長ガ指名スルコトニ致シマス

議事日程ノ第九、宅地組換法案第一讀會ノ續

第九 宅地組換法案(貴族院提出)

第一讀會ノ續(委員長)

○加藤六藏君(四番) 私ハ宅地組換法案ノ委員長デアリマヌカシテ、此委員會ノ經過及結果ヲ御報告致シマス、此宅地組換法案ハ、文字ハ甚ダ簡單ナモノデアリマシテ、漸ク三行ニ書イテアリマヌ、併シ其利害ト云フモノハ、中地價修正ト同様ナモノデアリマシテ、或ハ尙ホ一層甚シキモノト申シテ宜シクアリマス、如何トナレバ地價修正デアリマヌレバ、等級ガ數十アリマシテ、或ハ一等トカ二等トカ或ハ二十等トカ三十等トカ云フコトニ分ケルコトガ出

來ルノデスガ、此組換法案デアリマヌレバ、諸君ノ御存シノ如ク宅地ヲ三分三厘ニスルカ、直グト飛ンデ五分ニスルカト云フ場合デアリマヌカシテ、實ニ此利害ノ關係ハ甚シイモノデアリマヌル、故ニ委員會ニ於キマシテハ、鄭重ニ鄭重ヲ加ヘマシテ、六回委員會ヲ開キマシタ、諸君ノ御手許ニ同シマシタ如ク、委員會ノ速記録ガ第一號ヨリ第四號マデニ至リマヌル、随分質問モ十分ナシキマシテ、議論モ十分闊ハシマシタコトデアリマヌル、ソレ分委員會ノ半ニ於キマシテ、大凡ノ議論ガ二派ニ分レマシタ、一ノ議論ト申スハ、何シニシテモ是ハ捨置ク問題デハナイ、併シ此儘可ク否ラスルト云フコトハ出來ヌカラシテ、政府ニ於テ十分何某ノ所ハ、是ハ市街宅地ニスベキモノ、何某ハ郡村宅地ニスベキモノト云フコトヲ能ク其場所ヲ調ベテ、サウシテ其參考トシテ此委員會ニ出セト、斯ウ云フ議論ガ出マシタ、所ガ政府ニ於キマシテハ、地方ノ稅務管理局ヲ調ベテ居ルガ、今コ、ヘ出スト云フコトハ出來ヌト云フコトノ答デアリマシテ、ソレナラバ一週間バカリ待ツ、待ツカラ其間ニ能ク其地方ニ催促ヲ置ク、其材料ヲ取寄セル、其間ト云フモノハ暫ク委員會ト云フモノヲ延バシテ置クコト云フコト、到底一二縣ノモノデ、此全體ト云フモノハ、標準ヲ極メルコトガ出來ヌト云フコト、委員會デアリマヌル、材料ハ寄ラヌデシマシマシタ、ソレデアリマヌル委員會デアリマヌル、可否ヲ決スルト云フコトノ場合ニナリマシテ、即チ第六回ノ委員會ニ於キマシテ、可否ヲ決スルト云フ場合ニナリマシテ、ソレニ附キマシテ諸君ニ對シテ一言申シテ置キタイト云フモノハ、前ニ申上グル如ク委員會ノ速記録ヲ四號マデ御同シ申シテ置キマシタカラシテ、既ニ御覽ニナシタコト、考ヘマヌカシテ、詳シク此處デアリマヌル必要ハアリマヌレバ、一二甚シキモノ、重要ナモノニ附イテ速ベテ置キマヌル、此明治九年地租改正ノ際ニハ、御存シノ如ク日本ニ此地租改正區ト云フモノヲ七十有餘箇置キマシテ、其改正區ノ掛長ト云フモノハ、勝手デアリマシテ、或ル所デハ市街宅地ト云フモノヲ大層殖シ、言フテ見マヌレバ、小サイ旗ノ下ガアツタヤウナ所ハ、市街トスル、或ハチヨット人口ガ五六百アツテ、少シク家竝デモ揃ツテ居レバ市街ニスル、斯ウ云フ其改正區ノ長ト云フモノハ、意見ガ定メタ所モアレバ、少モ市街ト云フモノヲ一箇所モ置カヌト云フヤウナ所モアル、其違ヲ申シマヌルコト云フモノハ、栃木縣、茨城縣、埼玉縣、宮崎縣、ト云フモノハ、一縣ノ中ニ一箇所モ市街宅地ハナイ、皆郡村宅地ニナリテ居ル、ソレニ反シマシテ静岡縣トカ新潟縣トカ、二十幾ツト云フ市街宅地ニナリテ居ル所ガアル、又十箇所以上市街宅地ノ縣ガ七箇所アリマヌルガ、サウ云フヤウナ譯ニナリテ居ル、ソレデアリマヌル、ト云フモノハ、百分ノ二分五厘デアリマヌカシテ、郡村宅地ト云フコトニハ、少モ輕重ガナイ、ソレデアリマヌカシテ、過般此議會ニ於キマシテ、宅地ノ地租ハ百分ノ五トシ、市街宅地ノ百分ノ五、郡村宅地ハ百分ノ三分三厘ニナリテ居ルノハ、是ハ現行ノ市街宅地ノ名目ヲ直グニ當嵌メルト云フコトハ出來ヌノデアリ、斯ウ云フノガ即チ原案ノ精神デアリマシタ、所ガ唯之ヲ政府ニ、ソレデアリマヌル、此原案ヲ贊成シテ、政府ニ任セテ勅令デアリマシテ、吾々衆議院ニ於キマシテ、此案贊成デアリマヌレバ、サウナリマシタ、吾々衆議院ニ於キマシテ、重要ナ、憲法ニモアツテ、重

要ナ問題デアリ、ソレヲ大藏大臣ニ任スルト云フコトハ、不適當デアリ、故ニ、此場所ヲ極メルト云フコトナラバ、斯様ナ唯簡單ナモノニセズシテ、單行ノ郡ノ分合法案ノ如ク、何處キヤト云フモノハ市街宅地ニシタト、現行ノ市

來ルノデスガ、此組換法案デアリマヌレバ、諸君ノ御存シノ如ク宅地ヲ三分三厘ニスルカ、直グト飛ンデ五分ニスルカト云フ場合デアリマヌカシテ、實ニ此利害ノ關係ハ甚シイモノデアリマヌル、故ニ委員會ニ於キマシテハ、鄭重ニ鄭重ヲ加ヘマシテ、六回委員會ヲ開キマシタ、諸君ノ御手許ニ同シマシタ如ク、委員會ノ速記録ガ第一號ヨリ第四號マデニ至リマヌル、隨分質問モ十分ナシキマシテ、議論モ十分闊ハシマシタコトデアリマヌル、ソレ分委員會ノ半ニ於キマシテ、大凡ノ議論ガ二派ニ分レマシタ、一ノ議論ト申スハ、何シニシテモ是ハ捨置ク問題デハナイ、併シ此儘可ク否ラスルト云フコトハ出來ヌカラシテ、政府ニ於テ十分何某ノ所ハ、是ハ市街宅地ニスベキモノ、何某ハ郡村宅地ニスベキモノト云フコトヲ能ク其場所ヲ調ベテ、サウシテ其參考トシテ此委員會ニ出セト、斯ウ云フ議論ガ出マシタ、所ガ政府ニ於キマシテハ、地方ノ稅務管理局ヲ調ベテ居ルガ、今コ、ヘ出スト云フコトハ出來ヌト云フコトノ答デアリマシテ、ソレナラバ一週間バカリ待ツ、待ツカラ其間ニ能ク其地方ニ催促ヲ置ク、其材料ヲ取寄セル、其間ト云フモノハ暫ク委員會ト云フモノヲ延バシテ置クコト云フコト、到底一二縣ノモノデ、此全體ト云フモノハ、標準ヲ極メルコトガ出來ヌト云フコト、委員會デアリマヌル、材料ハ寄ラヌデシマシマシタ、ソレデアリマヌル委員會デアリマヌル、可否ヲ決スルト云フコトノ場合ニナリマシテ、即チ第六回ノ委員會ニ於キマシテ、可否ヲ決スルト云フ場合ニナリマシテ、ソレニ附キマシテ諸君ニ對シテ一言申シテ置キタイト云フモノハ、前ニ申上グル如ク委員會ノ速記録ヲ四號マデ御同シ申シテ置キマシタカラシテ、既ニ御覽ニナシタコト、考ヘマヌカシテ、詳シク此處デアリマヌル必要ハアリマヌレバ、一二甚シキモノ、重要ナモノニ附イテ速ベテ置キマヌル、此明治九年地租改正ノ際ニハ、御存シノ如ク日本ニ此地租改正區ト云フモノヲ七十有餘箇置キマシテ、其改正區ノ掛長ト云フモノハ、勝手デアリマシテ、或ル所デハ市街宅地ト云フモノヲ大層殖シ、言フテ見マヌレバ、小サイ旗ノ下ガアツタヤウナ所ハ、市街トスル、或ハチヨット人口ガ五六百アツテ、少シク家竝デモ揃ツテ居レバ市街ニスル、斯ウ云フ其改正區ノ長ト云フモノハ、意見ガ定メタ所モアレバ、少モ市街ト云フモノヲ一箇所モ置カヌト云フヤウナ所モアル、其違ヲ申シマヌルコト云フモノハ、栃木縣、茨城縣、埼玉縣、宮崎縣、ト云フモノハ、一縣ノ中ニ一箇所モ市街宅地ハナイ、皆郡村宅地ニナリテ居ル、ソレニ反シマシテ静岡縣トカ新潟縣トカ、二十幾ツト云フ市街宅地ニナリテ居ル所ガアル、又十箇所以上市街宅地ノ縣ガ七箇所アリマヌルガ、サウ云フヤウナ譯ニナリテ居ル、ソレデアリマヌル、ト云フモノハ、百分ノ二分五厘デアリマヌカシテ、郡村宅地ト云フコトニハ、少モ輕重ガナイ、ソレデアリマヌカシテ、過般此議會ニ於キマシテ、宅地ノ地租ハ百分ノ五トシ、市街宅地ノ百分ノ五、郡村宅地ハ百分ノ三分三厘ニナリテ居ルノハ、是ハ現行ノ市街宅地ノ名目ヲ直グニ當嵌メルト云フコトハ出來ヌノデアリ、斯ウ云フノガ即チ原案ノ精神デアリマシタ、所ガ唯之ヲ政府ニ、ソレデアリマヌル、此原案ヲ贊成シテ、政府ニ任セテ勅令デアリマシテ、吾々衆議院ニ於キマシテ、此案贊成デアリマヌレバ、サウナリマシタ、吾々衆議院ニ於キマシテ、重要ナ、憲法ニモアツテ、重

要ナ問題デアリ、ソレヲ大藏大臣ニ任スルト云フコトハ、不適當デアリ、故ニ、此場所ヲ極メルト云フコトナラバ、斯様ナ唯簡單ナモノニセズシテ、單行ノ郡ノ分合法案ノ如ク、何處キヤト云フモノハ市街宅地ニシタト、現行ノ市

來ルノデスガ、此組換法案デアリマヌレバ、諸君ノ御存シノ如ク宅地ヲ三分三厘ニスルカ、直グト飛ンデ五分ニスルカト云フ場合デアリマヌカシテ、實ニ此利害ノ關係ハ甚シイモノデアリマヌル、故ニ委員會ニ於キマシテハ、鄭重ニ鄭重ヲ加ヘマシテ、六回委員會ヲ開キマシタ、諸君ノ御手許ニ同シマシタ如ク、委員會ノ速記録ガ第一號ヨリ第四號マデニ至リマヌル、隨分質問モ十分ナシキマシテ、議論モ十分闊ハシマシタコトデアリマヌル、ソレ分委員會ノ半ニ於キマシテ、大凡ノ議論ガ二派ニ分レマシタ、一ノ議論ト申スハ、何シニシテモ是ハ捨置ク問題デハナイ、併シ此儘可ク否ラスルト云フコトハ出來ヌカラシテ、政府ニ於テ十分何某ノ所ハ、是ハ市街宅地ニスベキモノ、何某ハ郡村宅地ニスベキモノト云フコトヲ能ク其場所ヲ調ベテ、サウシテ其參考トシテ此委員會ニ出セト、斯ウ云フ議論ガ出マシタ、所ガ政府ニ於キマシテハ、地方ノ稅務管理局ヲ調ベテ居ルガ、今コ、ヘ出スト云フコトハ出來ヌト云フコトノ答デアリマシテ、ソレナラバ一週間バカリ待ツ、待ツカラ其間ニ能ク其地方ニ催促ヲ置ク、其材料ヲ取寄セル、其間ト云フモノハ暫ク委員會ト云フモノヲ延バシテ置クコト云フコト、到底一二縣ノモノデ、此全體ト云フモノハ、標準ヲ極メルコトガ出來ヌト云フコト、委員會デアリマヌル、材料ハ寄ラヌデシマシマシタ、ソレデアリマヌル委員會デアリマヌル、可否ヲ決スルト云フコトノ場合ニナリマシテ、即チ第六回ノ委員會ニ於キマシテ、可否ヲ決スルト云フ場合ニナリマシテ、ソレニ附キマシテ諸君ニ對シテ一言申シテ置キタイト云フモノハ、前ニ申上グル如ク委員會ノ速記録ヲ四號マデ御同シ申シテ置キマシタカラシテ、既ニ御覽ニナシタコト、考ヘマヌカシテ、詳シク此處デアリマヌル必要ハアリマヌレバ、一二甚シキモノ、重要ナモノニ附イテ速ベテ置キマヌル、此明治九年地租改正ノ際ニハ、御存シノ如ク日本ニ此地租改正區ト云フモノヲ七十有餘箇置キマシテ、其改正區ノ掛長ト云フモノハ、勝手デアリマシテ、或ル所デハ市街宅地ト云フモノヲ大層殖シ、言フテ見マヌレバ、小サイ旗ノ下ガアツタヤウナ所ハ、市街トスル、或ハチヨット人口ガ五六百アツテ、少シク家竝デモ揃ツテ居レバ市街ニスル、斯ウ云フ其改正區ノ長ト云フモノハ、意見ガ定メタ所モアレバ、少モ市街ト云フモノヲ一箇所モ置カヌト云フヤウナ所モアル、其違ヲ申シマヌルコト云フモノハ、栃木縣、茨城縣、埼玉縣、宮崎縣、ト云フモノハ、一縣ノ中ニ一箇所モ市街宅地ハナイ、皆郡村宅地ニナリテ居ル、ソレニ反シマシテ静岡縣トカ新潟縣トカ、二十幾ツト云フ市街宅地ニナリテ居ル所ガアル、又十箇所以上市街宅地ノ縣ガ七箇所アリマヌルガ、サウ云フヤウナ譯ニナリテ居ル、ソレデアリマヌル、ト云フモノハ、百分ノ二分五厘デアリマヌカシテ、郡村宅地ト云フコトニハ、少モ輕重ガナイ、ソレデアリマヌカシテ、過般此議會ニ於キマシテ、宅地ノ地租ハ百分ノ五トシ、市街宅地ノ百分ノ五、郡村宅地ハ百分ノ三分三厘ニナリテ居ルノハ、是ハ現行ノ市街宅地ノ名目ヲ直グニ當嵌メルト云フコトハ出來ヌノデアリ、斯ウ云フノガ即チ原案ノ精神デアリマシタ、所ガ唯之ヲ政府ニ、ソレデアリマヌル、此原案ヲ贊成シテ、政府ニ任セテ勅令デアリマシテ、吾々衆議院ニ於キマシテ、此案贊成デアリマヌレバ、サウナリマシタ、吾々衆議院ニ於キマシテ、重要ナ、憲法ニモアツテ、重

要ナ問題デアリ、ソレヲ大藏大臣ニ任スルト云フコトハ、不適當デアリ、故ニ、此場所ヲ極メルト云フコトナラバ、斯様ナ唯簡單ナモノニセズシテ、單行ノ郡ノ分合法案ノ如ク、何處キヤト云フモノハ市街宅地ニシタト、現行ノ市

來ルノデスガ、此組換法案デアリマヌレバ、諸君ノ御存シノ如ク宅地ヲ三分三厘ニスルカ、直グト飛ンデ五分ニスルカト云フ場合デアリマヌカシテ、實ニ此利害ノ關係ハ甚シイモノデアリマヌル、故ニ委員會ニ於キマシテハ、鄭重ニ鄭重ヲ加ヘマシテ、六回委員會ヲ開キマシタ、諸君ノ御手許ニ同シマシタ如ク、委員會ノ速記録ガ第一號ヨリ第四號マデニ至リマヌル、隨分質問モ十分ナシキマシテ、議論モ十分闊ハシマシタコトデアリマヌル、ソレ分委員會ノ半ニ於キマシテ、大凡ノ議論ガ二派ニ分レマシタ、一ノ議論ト申スハ、何シニシテモ是ハ捨置ク問題デハナイ、併シ此儘可ク否ラスルト云フコトハ出來ヌカラシテ、政府ニ於テ十分何某ノ所ハ、是ハ市街宅地ニスベキモノ、何某ハ郡村宅地ニスベキモノト云フコトヲ能ク其場所ヲ調ベテ、サウシテ其參考トシテ此委員會ニ出セト、斯ウ云フ議論ガ出マシタ、所ガ政府ニ於キマシテハ、地方ノ稅務管理局ヲ調ベテ居ルガ、今コ、ヘ出スト云フコトハ出來ヌト云フコトノ答デアリマシテ、ソレナラバ一週間バカリ待ツ、待ツカラ其間ニ能ク其地方ニ催促ヲ置ク、其材料ヲ取寄セル、其間ト云フモノハ暫ク委員會ト云フモノヲ延バシテ置クコト云フコト、到底一二縣ノモノデ、此全體ト云フモノハ、標準ヲ極メルコトガ出來ヌト云フコト、委員會デアリマヌル、材料ハ寄ラヌデシマシマシタ、ソレデアリマヌル委員會デアリマヌル、可否ヲ決スルト云フコトノ場合ニナリマシテ、即チ第六回ノ委員會ニ於キマシテ、可否ヲ決スルト云フ場合ニナリマシテ、ソレニ附キマシテ諸君ニ對シテ一言申シテ置キタイト云フモノハ、前ニ申上グル如ク委員會ノ速記録ヲ四號マデ御同シ申シテ置キマシタカラシテ、既ニ御覽ニナシタコト、考ヘマヌカシテ、詳シク此處デアリマヌル必要ハアリマヌレバ、一二甚シキモノ、重要ナモノニ附イテ速ベテ置キマヌル、此明治九年地租改正ノ際ニハ、御存シノ如ク日本ニ此地租改正區ト云フモノヲ七十有餘箇置キマシテ、其改正區ノ掛長ト云フモノハ、勝手デアリマシテ、或ル所デハ市街宅地ト云フモノヲ大層殖シ、言フテ見マヌレバ、小サイ旗ノ下ガアツタヤウナ所ハ、市街トスル、或ハチヨット人口ガ五六百アツテ、少シク家竝デモ揃ツテ居レバ市街ニスル、斯ウ云フ其改正區ノ長ト云フモノハ、意見ガ定メタ所モアレバ、少モ市街ト云フモノヲ一箇所モ置カヌト云フヤウナ所モアル、其違ヲ申シマヌルコト云フモノハ、栃木縣、茨城縣、埼玉縣、宮崎縣、ト云フモノハ、一縣ノ中ニ一箇所モ市街宅地ハナイ、皆郡村宅地ニナリテ居ル、ソレニ反シマシテ静岡縣トカ新潟縣トカ、二十幾ツト云フ市街宅地ニナリテ居ル所ガアル、又十箇所以上市街宅地ノ縣ガ七箇所アリマヌルガ、サウ云フヤウナ譯ニナリテ居ル、ソレデアリマヌル、ト云フモノハ、百分ノ二分五厘デアリマヌカシテ、郡村宅地ト云フコトニハ、少モ輕重ガナイ、ソレデアリマヌカシテ、過般此議會ニ於キマシテ、宅地ノ地租ハ百分ノ五トシ、市街宅地ノ百分ノ五、郡村宅地ハ百分ノ三分三厘ニナリテ居ルノハ、是ハ現行ノ市街宅地ノ名目ヲ直グニ當嵌メルト云フコトハ出來ヌノデアリ、斯ウ云フノガ即チ原案ノ精神デアリマシタ、所ガ唯之ヲ政府ニ、ソレデアリマヌル、此原案ヲ贊成シテ、政府ニ任セテ勅令デアリマシテ、吾々衆議院ニ於キマシテ、此案贊成デアリマヌレバ、サウナリマシタ、吾々衆議院ニ於キマシテ、重要ナ、憲法ニモアツテ、重



スル、縦シ此八十方圓定メテ市街宅地ヲ四十方圓ニ減サウガ、三十方圓ニ減サウガ、少モ關係ハナイ、法律ノ改正ノタメニ現レタル所ノ即チ減額デア

ルナラバ、一向其減額ハ構ヒマセヌガ、本年ノ如キ彼ノ郵便稅ニマデ掛ケテ取ラネバ、國ノ財政ガ減スルコト云フトキニ於テ、政府ハ如何ニ公平ナ眼ヲ

持ツテモ、集メ來ツタ租稅ノ材料ノ中デ、此豫算ヲ減シテモ、此公平ヲ圖ル中デ、甲ダケヲ取レバ、成ル程豫算ハ一杯ニナルガ、併シ甲ヲ取レバ、甲モ

乙モ丙モ丁モ同ジ標準デアアルカラ、同一デアアルト云フノハ、同ジ十度ノ一メイトル一ヲ用ヒルトキニアツテハ、矢張四ツトモ取ラネバナラヌノデゴザリ

マスル、此四ツ取ツタナラバ、即チ大藏省ノ官吏ガ此甲乙丙丁ヲ等シク入レルト云フコトニナリマスル、勢八十方圓ハ百六十方圓ニモナリ、少クモ百

萬圓以上ニ増稅スルト云フコトニナツテ、結局此法案ニ依ツテ、一ノ増稅ヲ構成サレル所ノ危險ノアルノデゴザリマスル(一簡短々々ト呼フ者アリ)モウ

直グニ濟ミマスカラ、今一言デ止メマス、斯様ニ波瀾ノ上ニ波瀾ヲ加ヘルノト、今一ツ最モ政府ノタメニ氣ノ毒ナルコト一單リ政府ノタメニ氣ノ毒ナ

ルノモノナラズ、國ノ行政ノ上ニ附イテ最モ吾々ガ考慮シナケレバナラヌ問題ガアルノデゴザリマスル、何デアアルカト云フコトデアアツタナラバ、如何ナル

此標準ニ依ツテ何處マデモ之ヲ定メルコト云フコトデアアツタナラバ、如何ナル苦情ガ湧來ツテモ、如何ナル請願ガ襲來ツテモ、政府ガ確然トシテ條件ガア

ルカラ、此處ハ市街宅地ニシマスゾト云フ一言ハ、直チニ是等ノ請願書、是ノ葛藤ヲ大藏省ノ門前拂ヲ爲スコトガ出來マスルガ、唯政府ハ標準モナク、

一見己ノ眼光ニ任セヨト云フガ如キコトヲ以テ、此案ニ對スル責ヲ負ツタナラバ、百ノ請願ガ來ルベシ、百ノ町村ノ葛藤ハ起ルベシ、之ニ依ツテ政府ガ

如何ニ定メントシテモ、此案ノタメニ全國ノ宅地ノ地價ニ風波ヲ生ジテ、一ハ請願トナリ、一ハ強訴トナリ、一ハ歎願トナリ、一ハ直訴トナルガ如キ、

僅ナコトデアアリマスゲレドモ、地價ガ狂ヒ地租ガ狂フトハ直訴位恐ロシイコトハナク、コトデアアリマスゲレドモ、況ヤ此恐ロシイコト云フコトハ、請願ト云フ門戸ノ

間ニ之ガ或ハ容レラレルコトニナツタナラバ、之ガタメニ行政ノ葛藤ヲ生ズルト云フコトハ、決シテ豫定シテ憚カラヌノデゴザリマスル、斯様ナ理由デ

ゴザリマスルカラ、一ハ行政ノ上ニ附イテモ、政府ノタメニ取ツテモ、此案ヲ廢棄スルノガ、寧ろ安全デゴザリマスル、併ナガラ之ヲ廢棄スルノハ如何

ニモ不親切デアアルカラ、從來市街宅地トナツテ居ツテ、重稅ヲ課セラレテ居ルモノヲ救濟スル途ハナイト云フ反對論ガアルカハ知レマセヌガ、此反對論

ハ唯僅ニ一分ノ不平ヲ治メントシテ、却テ將來多クノ不平ヲ作ル所ノ一手段ト云ハ、ナラヌ、而モ此不平ヲ調理スル途ハ、外ニ最モ適當ナル途ヲ以テ

爲スコトガ出來ルノデゴザリマスル、現ニ今日モ政府ハ重大ナル所ノ國家ノ財產問題タル動産銀行法案ヲ出シタノデゴザリマスル、其他ニモ澤山ナ法案

○恆松隆慶君(九十七番) 議長、私ハ通告シテアリマス ○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君

○恆松隆慶君(九十七番) 議長、私ハ簡短ニ此二讀會ヲ開カネバナラヌト云フ理由ヲ述べたいデゴザリマス、唯今高木君ノ此案ヲ此場合否決スルト云フコトハ、實ニ重大問題デアリマス、吾々ノ見ル所ハ、此問題ハ實ニ眞法ノ問題

デアアルト思ヒマス、既ニ田畑市街宅地ノ地租率ト云フモノヲ改メシテ、兩院ヲ通過シテ、既ニ早ヤ公布ニモナツテ居ルノデアアル、然ルニ市街宅地ハ如何デアアルカ、其改正ノ際ニ倍ニナツテ居ル、二個半ガ即チ五分ニナツタノデア

リマス、然ルニ全國各地ノ府縣ノ有様ヲ見マスルニ、市街ノ分ハ極公平デアアルカト云ヘバ、決シテ公平ニナツテ居ラナイノデアアル、改正年度ノ異ナリ、

又各藩ノ舊制度ノ異ナルガタメデアリマス、既ニ新潟靜岡アタリノコトハ、委員長ガ述べラレマシタガ、マダ著シク其不公平ノアル所ヲ一ニ簡處申シマス

レバ、福岡縣、三重縣、山形、秋田、青森、福島、長野、愛知、島根、其他孰ノ縣ニモサウ云フ類ノ誠ニ寥々寂々タル所ノ些々タル土地ガ、市街地租ニナツテ居

ルノデアアル、ソレガ五分ニナツタル所ノ些々タル土地ガ、市街地租ニナツテ居ル掛ケテ、是ガ公平デアアルヤ否ヤヲ判斷シナケレバナラヌ、此法ニ依ツテ不

權衡ナコトヲ訂シテ、初テ公平ニ致シテヤル、取除ケテヤル、然ルニ一方ノ入レルハドウスルト云ヘバ、地租改正ノ當時郡村宅地ノ名義ヲ以テ改正ヲ受

ケテ居ルモノハ、其以來鐵道ガ附キ、停車場ガ附イタリ、或ハ軍隊ヲ置カレテ、總テ銀行諸會社等ノ機關ガ備ツテ、如何ニモ市街地ト認ムルダケノ特殊

ノモノガ、自然漏レテ居ル所ガアレバ、入レルト云フノデアアル、入レルヨリハ除ク方ガ餘程重イノデアアル、決シテ是ハ黨派問題デアナイ、虚心平氣ニ諸君

ガ考ヘ爲サレタラ、一方ニハ五分ナレバ、丁度七月以後カラハ地租ニ關係ガアル、ソレヲ知リナガラ地租案ニ反對シタカラ、ソレニ伴フ案ダカラ、是ニ

委員中ダモ高木君ノ如キハ、長ト質問セラレ、私モ常ニハ簡短デアルガ、此トキニハ長ク質問討論致シタコトハ、速記録ニテ諸君モ御承知デアラウト思

ヒマス、斯様ナ場合デアトウ、五回目ノ委員會デアハ、卒ザドウカト云ヘバ、木村君ハ如何ニモ此案デアケレバ仕方ガアルマイ、今此場合ニ臨ンデ行レナイ

トカ、或ハ單行法ニセイ、命令ハイカナイト云フ、委員會ガ本議會デシナイ

デ、後ノ議會ヲ待ツト云フモノモアルガ、ソレハ大ニ現ニ不公平ノ分ツタモノヲツレヲ看ステハ、不親切ニスルハ、甚ダ同意シナイト云ウテ、立派ニ吾々

ニ同意セラレ、遂ニ二名ニ對スルハ、多數ヲ以テ決シタ、デアリマスカラ、

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス ○議長(片岡健吉君) 採決致シマス、本案ノ二讀會ヲ開カウト云フ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數 ○議長(片岡健吉君) 讀會省略デ、直ニ決議セラレントヲ希望致シマス ○議長(片岡健吉君) 讀會省略ノ動議ガ出マシタ、讀會省略ニ御異議アリマス

○議長(片岡健吉君) 採決致シマス、異議ガアリマスカラ採決致シマス、讀會省略ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス  
 ○鳩山和夫君(二百二十七番) 讀會省略ハ三分ノ二ノ多數ヲ要シマス、唯今ハ三分ノ二ノ多數ハナイト認メマス、私ハ異議ヲ申立テ認メマス  
 ○議長(片岡健吉君) 議長モ三分ノ二ノ多數ハナイト認メマス  
 ○星亨君(二百二十四番) 直チニ二讀會ヲ開クコトノ動議ヲ出シマス  
 ○議長(片岡健吉君) 星亨君ヨリ直チニ二讀會ヲ開ク動議ガ出マシタ、直チニ第二讀會ヲ開クコトニ御異議アリマスマイカ  
 (異議ナシ)ト呼フ者多シ  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、直ニ第二讀會ヲ開クコトニ致シマス、本案ハ全部ヲ議題ニ供シマス

宅地組換法案

第二讀會

(異議ナシ)ト呼フ者アリ  
 ○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ御異議アリマスマイカ  
 (異議ナシ)ト呼フ者アリ  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議アリマスケレバ、本案ハ可決シタルモノト認メマス  
 ○恆松隆慶君(九十七番) 直チニ三讀會ヲ開キ、確定セラレンコトヲ希望致シマス  
 ○工藤行幹君(百二十五番) 三讀會ニ於テ大體否決ノ意見ヲ、簡短デスカラ此處カラ述ベマス  
 ○議長(片岡健吉君) 直チニ三讀會ヲ開クコトニ御異議アリマスケレバ、(異議ナシ)ト呼フ者アリ  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、直チニ三讀會ヲ開クコトニ致シマス

宅地組換法案

第三讀會

○工藤行幹君(百二十五番) 私ハ此案ノ全體ヲ否決致シタト云フ意見ヲ簡短ニ此處カラ述ベマス、唯今恆松君ノ言レルヤウニ、ソレ程重大ナ案デアラナラバ、何故ニ政府ハ其案ヲ具ヘテ出サヌノデアアル、ソレヲ貴族院ノ議員ノ或一部ノ手カラ出シタト云フノハ、誠ニ怪シカラヌコトデアアル、或ハ政府ノ代表者デアアルカ何カ知ラナイケレドモ、此組換ト云フコトハ餘程面倒ナコトデアアルノデゴザイマス、嘗テ吾々ノ間ク所ニ據レバ、隨分政府ハ收稅長杯ヲ寄セテ協議シタコトガアルト聽イテ居ル、何レヲ郡村宅地カラ市街宅地ニシテ宜イカ、何レヲ又市街宅地ノ内カラ郡村宅地ニシテ宜イカト云フコトノ確タル見込ガ附カヌト云フコトヲ聽イテ居ルデゴザイマス、是ハ事實ダカドウカ分カラヌガ、隨分確ナ人カラ聽イテ居ル、サウ云フ不確デアルカラ、政府デハ是ノ場所ハ之ヲ郡村宅地ニスル、或ハ市街宅地ニスルト云フコトノ政府ノ意思ガ、未ダ極ラナイカラ、之ニ對シテ質問ガ起ルト、夢ニモ十分ナル答辯ガ出來ナイ故、事實政府ハ考案中デアラウト思ヒマス、斯ウ云フ他ノ法律案ト違ッテ租稅ニ關係スルコトハ、當局者ニ於テ能クミ取調ベテヤレバ、過失ハナイデゴザイマスガ、ソレヲ無理ニ命令ヲ以テヤレト云フヤウナ如キコトハ、如何ニモ立法部ト執行者ト順ヲ誤ッテ、甚ダ不都合ナル案ト認メマスカラ、全部廢棄スルコトニ致シタイ  
 ○西村淳藏君(六十二番) 折角工藤君ノ御議論デゴザイマシタガ、矢張私ハ

二讀會ノ通過過スル説デゴザイマス、議論ハ盡キテ居リマスカラ、直ニ採決ヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 採決致シマス、本案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數  
 ○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、本案ハ確定シタルモノト認メマス

○杉田定一君(二百九十九番) 是ヨリ國有林野法ノ委員會ヲ開キマスカラ、認可ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 杉田定一君ヨリ國有林野法ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデゴザイマス、許可シテ御異議アリマスマイカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ  
 ○議長(片岡健吉君) 許可スルコトニ致シマス、議事日程ノ第十、國事犯罪者家祿賞典處分法案第一讀會ノ續、關信之介君

第十 國事犯罪者家祿賞典處分法案 第一讀會ノ續(委員長)

(關信之介君外十五名提出) 委員長ガ見エナイヤウデゴザイマスカラ、私ガ代ッテ報告致シマス

(天津淳一郎君演壇ニ登ル)  
 ○天津淳一郎君(百九十番) 國事犯罪者家祿賞典處分法案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス、一昨々日委員長理事ノ選舉ヲ致シマシテ、委員長ニハ關信之介君、理事ニ私ガ當選致シマシタ、一昨日委員會ヲ開キマシテ、少シ修正ヲ致シマシタ、デ第一條「國事ニ關スル犯罪ノタメ云々」トアル上デ「明治元年以後國事ニ關スル犯罪ノタメ云々」ト云フ「明治元年以後」ト云フ六字ヲ加ヘマシタ、而シテ委員會ハ滿場一致デ本院ニ於テ可決スベキモノト決定致シマシタ、此段御報告致シマス、併テ是ハ政府ハ明治三年何月カラ以後ノガデナケレバ、家祿ヲ渡サヌト言ッテ居リマスガ、明治三年何月トカ云フノニ區切ヲ附ケテ居ルコトハ、甚ダ不當ダト云フノガ、滿場一致ノ議論デ、維新ノ際方向ヲ誤ッタリ何カヲ致シマシタ者ハ、同ジク三年以後ノモノト同様ナル不幸ニ際會シテ居ルノデ、特ニ三月以後ト云フ所デ區切ヲ取ルト云フコトハ、甚ダ不當ナ話デ、明治元年以後ト云フコトニ直シタイ、サウシマスルト政府デハ非常ニ人數デモ殖エテ來ルヤウニ思ッテ居ルガ、實際之ハ殖エハシナイ、此法案デ調ベテ見マシタ所ガ、僅ニ一番多イノガ水戸藩、其次ガ山口藩、斯ウ云フノデゴザイマシテ、際限ナク人數ガ殖エ來ルト云フヤウナコトハ、誠ニ此案ニ反對スル志想ヲ懷イテ、人ヲ迷ハスルト云フニ外ナラナイ誠ニ此僅ノ金額ヲ維新ノ際以後ニ方向ヲ誤ッテ、今艱難シテ居ル者ヲ救出シテ、同ジク明治ノ恩典ニ浴スルト云フコトハ、此法案デ出來マスルト存シマスルカラ、サウ云フ趣意デ委員會ハ滿場一致デ決シマシタノデゴザイマス

○恆松隆慶君(九十七番) 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ……

(政府委員大藏省理財局長松尾臣善君演壇ニ登ル)

○政府委員(松尾臣善君) 只今委員長ノ報告ニナリマシタ法案ニ附キマシテ、政府ハ此案ニ御同意ヲ表スルコトノ出來マセヌ所以ヲ一言申上ゲテ置キマスデゴザイマス(簡短)ト呼フ者アリ(二十七年ノ法律ノ第二十號ノコトガ引イテゴザイマスルガ、此明治三年九月十日ヲ以テ區域ト致シマシタコトハ、三年九月十日藩制ヲ發布セラレマシタ以後ハ、其有祿者ノ功過ニ依ッテ秩祿ノ與奪ト云フモノガ、朝廷へ朝裁ヲ請フコトニナリマシタノデ、即チ其權限

ハ此トキヲ以テ明ニ朝廷ニ歸シタコトデアリマス、是ヲ以チマシテ其區域ト致シタノゾゴザイマス、即チ此當時ニ於キマシテ、明治二十七年二十號ノ法律案ヲ本院ニ於テ議セラレ、トキニ當リマシテ、本院ヨリ即チ今ノ九月十日ト云フ所ノ區域ニスルハ、ドウ云フ譯デアアルカト云フ御質問ガ出マシテ、ソレニ對シマシテハ、即チ政府ハ答辯書ヲ出シマシテ、御質問ヲ致シテ居ルノデ、其時分ノ議事ニ於キマシテ本院ニ於キマシテ其コトヲ審議セラレテ、御議決ニナツタ譯デアゴザイマス、デ今日ニ於キマシテモ矢張三年九月十日ヲ以テ區域トシマシテ、ソレヨリ以前ニ遡リマスルコトハ、不穩當ナルコト、考ヘマスルカラ、遺憾ナガラ本案ニハ同意ヲ表スルコトガ出來マセヌデ、此段御參考ニ申上ゲテ置キマス

○關信之介君(六番) 六番——六番  
 ○議長(片岡健吉君) 質問デスカ  
 ○關信之介君(六番) 贊成デ……  
 ○議長(片岡健吉君) 採決シヤウト思ヒマス、本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤニ附イテ採決ヲ致シマス、第二讀會ヲ開カウト云フ諸君ノ起立ヲ請ヒマス  
 ○議長(片岡健吉君) 又ハ「少數ヲ認メマス」ト呼フ者多シ  
 ○議長(片岡健吉君) 少數ト認メマス  
 ○議長(片岡健吉君) 又ハ「異議ノ申立ヲ致シマス」又ハ「異議ハアリマセヌ」ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガアレバ、氏名點呼ヲ始メマス  
 ○議長(片岡健吉君) 又ハ「異議アリ異議アリ」ト呼フ者アリ  
 ○議長(片岡健吉君) 二十名以上ノ贊成ガアレバ、氏名點呼ヲ致シマス、異議ノ申立ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス——成規ノ贊成ガアリマス——閉鎖氏名點呼ヲ始メマス  
 ○議長(片岡健吉君) 氏名點呼ノ結果ヲ御報告致シマス  
 ○議長(片岡健吉君) 氏名點呼ノ結果ヲ御報告致シマス

出席總數百六  
 可トスル者 七十  
 否トスル者 三十六  
 ○議長(片岡健吉君) 本案ハ第二讀會ヲ開クコトニナリマシタ  
 ○恆松隆慶君(九十七番) 斯ウ多數デ、二讀會ヲ開クコトニナレバ、無論此場合ニ讀會ヲ省略シテ直ニ確定セラレンコトヲ希望致シマス  
 ○議長(片岡健吉君) 恆松隆慶君カラ讀會省略ノ動議ガ出マシタガ、御異議アリマセヌカ  
 ○議長(片岡健吉君) 異議ナシト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ御異議ガアリマセヌカ  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、讀會ヲ省略シテ本案ヲ議スルコトニ致シマス  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、讀會ヲ省略シテ本案ヲ議スルコトニ致シマス

國事犯罪者家祿賞典處分法案 確定議  
 ○議長(片岡健吉君) 本案ニ附イテ御異議ガアリマセヌカ  
 ○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、可決シタモノト認メマス——次ハ日程第十一、信用組合設置ニ關スル建議案委員長報告——寺田彦太郎君

第十一 信用組合設置ニ關スル建議案(中楚廣 (委員長報告) 太郎君外四名提出)

○寺田彦太郎君(六十三番) 信用組合設立ノ建議案特別委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、信用組合ハ營業又ハ經濟方其他ニ附キマシテ便益アルモノト信ジマシテ、全會一致ヲ以チマシテ本案ヲ可決スベキモノト決シマシテゴザイマス、此段御報告致シマス  
 ○議長(片岡健吉君) 然ラバ可決シタモノト認メマス——次ハ第十二憲法ノ保護ヲ受クルノ請願外一件

○恆松隆慶君(九十七番) 本案ハ最モ必要ノモノト考ヘマスカラ、直チニ可決セラレンコトヲ望ミマス  
 ○議長(片岡健吉君) 本案ハ委員長ノ報告通御異議アリマセヌカ  
 ○議長(片岡健吉君) 然ラバ可決シタモノト認メマス——次ハ第十二憲法ノ保護ヲ受クルノ請願外一件

第十二 (特別報告第一號) 憲法ノ保護ヲ受クルノ請願外一件  
 ○山本幸彦君(百八十九番) 委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此日程ノ第十ニカラシマヒマデハ、取東ネテ御報告致シマス、ソレカラ十二ノ日程ハ先日御報告ヲ申上ゲタ通りデアリマスカラ、略シテ申シマセヌ、十三カラ十九マデ、サウシテ一ツ除イテ二十一ニ是マデノ八ノ分ハ、是ハズツト以前ニ委員會デハ可決ヲ致シテ置イタノデス、然ルニ其後本院ニ於テ法律案若クハ建議案トナツテ、此種ノモノハ皆議決ヲ致シタノデアリマスカラ、唯今院議ヲ求メル必要モナイト考ヘマスカラ、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、日程カラ御取除ヲ願ヒマス、ソレカラ二十ノ支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其後支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其場合ニ委員長ノ報告ハ、此支那漆ノ關稅ハ現在ノ儘ニ據置クガ相當デアアルト云フコトガアッタノデ、ソレヲ議場ハ認メマシタニ附キマシテハ、此免稅ニ關スルコトハ、既ニ議場ニ於テ決定ッテ居ルト考ヘマスカラ、御異存ナクバ、同様ニ日程カラ取除カレンコトヲ願ヒマス、ソレカラ二十二ノ日程、是ハ初メテ現レタノデアリマス、是ハ官有地無料拜借人ニ對スル處分ノ請願デ、此場所ハ栃木縣ノ那須郡蘆野ト云フ所カラ出テ居ル請願デアリマスガ、チヨット簡短ニ申上ゲテ置キマセヌト、此目安デハ分ラヌト考ヘマス、此山林デゴザイマス、其山林ガ草山ト稱ヘテ、蘆野字湯舟外數筆ヲ束ネテ、殆ド八町步餘モアル官林デアリマスガ、ソレハ蘆野村ノ祖先ヨリ代々民有ノ如キ有様ニナツテ居タサウデゴザイマス、サウシテアルト云フ山デアッタ、サウデスガ、ソレヲ二十二ノ項ニテ居ッテ居ッテ者モ尤モ村民カラ拂下ヲ出願致シタコトモアッタガ許サレナカッタ、其後二十二三年ノ頃ニ或ル部分デアナイ、其住人ニ無料拜借ト云フコトニナツタノデゴザイマス、無料拜借ニナツタ後ニ、時ノ縣廳ハ種々ノ縣達ヲ出シテ居ル、其縣達ニ此無料拜借地ハ他人ニ讓ルコトモ出來ナイ、若クハ貸渡スコ

○山本幸彦君(百八十九番) 委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此日程ノ第十ニカラシマヒマデハ、取東ネテ御報告致シマス、ソレカラ十二ノ日程ハ先日御報告ヲ申上ゲタ通りデアリマスカラ、略シテ申シマセヌ、十三カラ十九マデ、サウシテ一ツ除イテ二十一ニ是マデノ八ノ分ハ、是ハズツト以前ニ委員會デハ可決ヲ致シテ置イタノデス、然ルニ其後本院ニ於テ法律案若クハ建議案トナツテ、此種ノモノハ皆議決ヲ致シタノデアリマスカラ、唯今院議ヲ求メル必要モナイト考ヘマスカラ、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、日程カラ御取除ヲ願ヒマス、ソレカラ二十ノ支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其後支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其場合ニ委員長ノ報告ハ、此支那漆ノ關稅ハ現在ノ儘ニ據置クガ相當デアアルト云フコトガアッタノデ、ソレヲ議場ハ認メマシタニ附キマシテハ、此免稅ニ關スルコトハ、既ニ議場ニ於テ決定ッテ居ルト考ヘマスカラ、御異存ナクバ、同様ニ日程カラ取除カレンコトヲ願ヒマス、ソレカラ二十二ノ日程、是ハ初メテ現レタノデアリマス、是ハ官有地無料拜借人ニ對スル處分ノ請願デ、此場所ハ栃木縣ノ那須郡蘆野ト云フ所カラ出テ居ル請願デアリマスガ、チヨット簡短ニ申上ゲテ置キマセヌト、此目安デハ分ラヌト考ヘマス、此山林デゴザイマス、其山林ガ草山ト稱ヘテ、蘆野字湯舟外數筆ヲ束ネテ、殆ド八町步餘モアル官林デアリマスガ、ソレハ蘆野村ノ祖先ヨリ代々民有ノ如キ有様ニナツテ居タサウデゴザイマス、サウシテアルト云フ山デアッタ、サウデスガ、ソレヲ二十二ノ項ニテ居ッテ居ッテ者モ尤モ村民カラ拂下ヲ出願致シタコトモアッタガ許サレナカッタ、其後二十二三年ノ頃ニ或ル部分デアナイ、其住人ニ無料拜借ト云フコトニナツタノデゴザイマス、無料拜借ニナツタ後ニ、時ノ縣廳ハ種々ノ縣達ヲ出シテ居ル、其縣達ニ此無料拜借地ハ他人ニ讓ルコトモ出來ナイ、若クハ貸渡スコ

○山本幸彦君(百八十九番) 委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此日程ノ第十ニカラシマヒマデハ、取東ネテ御報告致シマス、ソレカラ十二ノ日程ハ先日御報告ヲ申上ゲタ通りデアリマスカラ、略シテ申シマセヌ、十三カラ十九マデ、サウシテ一ツ除イテ二十一ニ是マデノ八ノ分ハ、是ハズツト以前ニ委員會デハ可決ヲ致シテ置イタノデス、然ルニ其後本院ニ於テ法律案若クハ建議案トナツテ、此種ノモノハ皆議決ヲ致シタノデアリマスカラ、唯今院議ヲ求メル必要モナイト考ヘマスカラ、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、日程カラ御取除ヲ願ヒマス、ソレカラ二十ノ支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其後支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其場合ニ委員長ノ報告ハ、此支那漆ノ關稅ハ現在ノ儘ニ據置クガ相當デアアルト云フコトガアッタノデ、ソレヲ議場ハ認メマシタニ附キマシテハ、此免稅ニ關スルコトハ、既ニ議場ニ於テ決定ッテ居ルト考ヘマスカラ、御異存ナクバ、同様ニ日程カラ取除カレンコトヲ願ヒマス、ソレカラ二十二ノ日程、是ハ初メテ現レタノデアリマス、是ハ官有地無料拜借人ニ對スル處分ノ請願デ、此場所ハ栃木縣ノ那須郡蘆野ト云フ所カラ出テ居ル請願デアリマスガ、チヨット簡短ニ申上ゲテ置キマセヌト、此目安デハ分ラヌト考ヘマス、此山林デゴザイマス、其山林ガ草山ト稱ヘテ、蘆野字湯舟外數筆ヲ束ネテ、殆ド八町步餘モアル官林デアリマスガ、ソレハ蘆野村ノ祖先ヨリ代々民有ノ如キ有様ニナツテ居タサウデゴザイマス、サウシテアルト云フ山デアッタ、サウデスガ、ソレヲ二十二ノ項ニテ居ッテ居ッテ者モ尤モ村民カラ拂下ヲ出願致シタコトモアッタガ許サレナカッタ、其後二十二三年ノ頃ニ或ル部分デアナイ、其住人ニ無料拜借ト云フコトニナツタノデゴザイマス、無料拜借ニナツタ後ニ、時ノ縣廳ハ種々ノ縣達ヲ出シテ居ル、其縣達ニ此無料拜借地ハ他人ニ讓ルコトモ出來ナイ、若クハ貸渡スコ

○山本幸彦君(百八十九番) 委員會ノ結果ヲ御報告致シマス、此日程ノ第十ニカラシマヒマデハ、取東ネテ御報告致シマス、ソレカラ十二ノ日程ハ先日御報告ヲ申上ゲタ通りデアリマスカラ、略シテ申シマセヌ、十三カラ十九マデ、サウシテ一ツ除イテ二十一ニ是マデノ八ノ分ハ、是ハズツト以前ニ委員會デハ可決ヲ致シテ置イタノデス、然ルニ其後本院ニ於テ法律案若クハ建議案トナツテ、此種ノモノハ皆議決ヲ致シタノデアリマスカラ、唯今院議ヲ求メル必要モナイト考ヘマスカラ、諸君ニ於テ御異議ガナケレバ、日程カラ御取除ヲ願ヒマス、ソレカラ二十ノ支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其後支那漆輸入免稅ノ件、是モ先日日程ニ載セテ報告シテ置キマシタガ、其場合ニ委員長ノ報告ハ、此支那漆ノ關稅ハ現在ノ儘ニ據置クガ相當デアアルト云フコトガアッタノデ、ソレヲ議場ハ認メマシタニ附キマシテハ、此免稅ニ關スルコトハ、既ニ議場ニ於テ決定ッテ居ルト考ヘマスカラ、御異存ナクバ、同様ニ日程カラ取除カレンコトヲ願ヒマス、ソレカラ二十二ノ日程、是ハ初メテ現レタノデアリマス、是ハ官有地無料拜借人ニ對スル處分ノ請願デ、此場所ハ栃木縣ノ那須郡蘆野ト云フ所カラ出テ居ル請願デアリマスガ、チヨット簡短ニ申上ゲテ置キマセヌト、此目安デハ分ラヌト考ヘマス、此山林デゴザイマス、其山林ガ草山ト稱ヘテ、蘆野字湯舟外數筆ヲ束ネテ、殆ド八町步餘モアル官林デアリマスガ、ソレハ蘆野村ノ祖先ヨリ代々民有ノ如キ有様ニナツテ居タサウデゴザイマス、サウシテアルト云フ山デアッタ、サウデスガ、ソレヲ二十二ノ項ニテ居ッテ居ッテ者モ尤モ村民カラ拂下ヲ出願致シタコトモアッタガ許サレナカッタ、其後二十二三年ノ頃ニ或ル部分デアナイ、其住人ニ無料拜借ト云フコトニナツタノデゴザイマス、無料拜借ニナツタ後ニ、時ノ縣廳ハ種々ノ縣達ヲ出シテ居ル、其縣達ニ此無料拜借地ハ他人ニ讓ルコトモ出來ナイ、若クハ貸渡スコ

トモ出來ナイト云フ嚴重ナ縣達ヲシテ、サウシテ拜借人ハ縣達ヲ遵奉シテ拜借シテ居ッタ趣デアル、然ルニ之ヲ或人ニ拜借ニナレバ、村民ハ誠ニ困

ル、從來秣著クハ肥料ヲ刈取テ、ソレデ生活ヲシテ居ッタ程ノコトデアアル、故ニ之ヲ他人ニ貸渡サレテハ誠ニ困ルト云フ點カラ、村民杯ガ林ナリ肥料ナ

リヲ刈取ルコトノ約定ヲ結ンデ居タ趣デゴザイマスガ、其約定モ十分ニ拜借人ニ於テハ、遂行シナイノミナラズ、縣達ノアルニモ拘ラズ、或ハ拜借人ハ

他ニ拜借ヲシタトカ、又ハ貸渡シタトカ云フヤウナ、縣達ニ對シテハ不法ノ所爲ガアル、デソレ等ノ不法ノ行爲ノアツタ場合ニハ、之ヲ縣廳ハ取上ゲル

ト云フヤウナコトニ居ル、然ルニ縣廳ハ斯ノ如キ處分ヲ曖昧ニ附シテ、處分ヲセヌメニ、村民ハ誠ニ從來刈取テ居ッタ草ナリ若クハ秣ナリ

ニ手ヲ附ケルコトガ出來ナイト云フ譯デ、甚ダ困難ヲシテ居ル譯デアアルカラ、ドウゾ此山ニ附イテ相當ノ處分ヲ求メタイト云フ請願ノ要旨デ、相當ノ

請願ト認メテ通過致シマシテゴザイマス、ソレカラモウ一ツハ次ニアル社寺上地山林ヲ各社寺ニ引戻シノ請願、是ハ日程ノ文字ニ現レテ居ル通ノ趣意ヲ

以テ請願書ヲ差出シテ居ルノデゴザイマス、是モ相當ノ請願ト認メマシタ故ニ、院議ニ付スルコトニ相成ッタノデゴザイマス

○恆松隆慶君(九十七番) 此第十三カラ二十マデガ今日議シナイト云フ委員長カラ御話ニナッタト思ヒマスガ……

○山本幸彦君(二百八十九番) 第十三カラ二十一マデハ、御異議ガナケレバ除カレンコトヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 是ハ委員長ノ報告通、採擇スベキモノトスルニ御異議ハアリマスマイカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通致シマス、今委員長ノ報告ニナリマシタ通十三カラ二十一マデハ本院ニ於テ議決ニナッタ分デアリマスカラ、是ハ議事日程カラ取除クコトニ御異議ハアリマスマイカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通致シマス、議事日程ノ第二十二ノ請願ヲ議題ニ供シマス

第二十二 (特別報告第六號)官有地無料拜借人ニ對スル處分ノ請願

○恆松隆慶君(九十七番) 是ハ如何ニモ哀訴嘆願的ニ出テ居ルモノデ、採擇スベキモノナリト致シタイ

○議長(片岡健吉君) 是ハ委員長ノ報告通採擇スベキモノトシテ、御異議ハアリマスマイカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 次ニ第二十三ノ請願ヲ議題ニ供シマス

第二十三 (特別報告第十七號)社寺上地山林ヲ各社寺ニ引戻スノ請願

○星松三郎君(二百四十二番) 此際ニ關稅法案ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ……

○議長(片岡健吉君) 星松三郎君カラ關稅法案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマスガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

○鈴木重遠君(二百五十九番) 會計検査法ノ委員會ヲ開キタウゴザイマスカラ……

○議長(片岡健吉君) 會計検査法ノ委員會ヲ開キタイト云フコトヲ鈴木重遠君カラ申出デマシタガ、御異議ガナケレバ、許スコトニ致シマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○恆松隆慶君(九十七番) 此二十三ノ請願ハ、斯ウ云フ部類ニ屬スル法案ヲ委員會デ審査中デアゴザイマスカラ、其結果ヲ見ルコトニシテ、今日ダケ御延

バシテ願ヒマス

〔贊成〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 今恆松隆慶君カラ、此二十三ノ請願ハ、今日議シナイ、延ベルト云フ動議デアリマスガ、御異議ハアリマスマイカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通致シマス報告ガアリマス

(寺田書記官朗讀)

特別委員左ノ通指名セリ

刑事訴訟法中改正法律案委員

朝倉 親爲君 山内吉郎兵衛君 關 直彦君

磯田 和藏君 後藤文一郎君 東 良三郎君

丸山崐峨一郎君 花井 卓藏君 平岡萬次郎君

所得稅ヲ課セラレタル法人ヨリ受クル配當金ニ關スル法律案委員

佐藤 通代君 赤土 亮君 磯部八五郎君

持田 直君 宮崎 榮治君 三橋四郎次君

永井嘉六郎君 望月 長夫君 秋保 親兼君

船舶法案外一件委員

國重 政亮君 望月 圭介君 高川定次郎君

齋藤和平太君 田村順之助君 木村格之輔君

田中喜太郎君 市島 謙吉君 宮井茂九郎君

安川繁成君重岡薫五郎君菅原傳君ヨリ決算審査ニ關スル決議案ヲ、安藤龍太郎君根本正君粕谷義三君松岡長康君ヨリ小學校修身書ニ關スル建議案ヲ提出セラレタリ

○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御諮リ致スコトガゴザイマス、明日議事ニ掛クベキ議案ハ二案外アリマセヌカラ、無論休會致ス積デアリマス、二十六日ハ日曜日デアリマス、二十七日ハ先達テ部長ヨリ横須賀ノ造船所及東京灣ノ砲臺ヲ見タイト云フ申出ガアリマシテ、之ヲ海軍省陸軍省ニ掛合ウテヤリマシタラバ、二十七日ニ造船所及東京灣ノ砲臺ヲ見セヤウト云フ通知ガアリマシテ、議員ノ中カラ段々ソレニ參リタイト云フ申出ガアリマスカラ、二十七日ハ議會ヲ休會致シマシテハ如何デアリマセウ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ二十七日ハ休會致シマシテ議事日程ハ追ッテ御通知スルコトニ致シマス——今日ハ是ニテ散會致シマス

午後三時十一分散會

明治二十五年三月三十一日通信省認可 (一八)